# 3回目の「四国へんろ」

**［松陰・六部・童財善子］もどき**

## ～スルーハイク・ドキュメンタリー～

（大　沼　香（かおる））

# 「四国８８か寺霊場順礼　歩きへんろ：順打ち」
# &
# 「四国から高野山へ」
# 貫（完）歩記録

| | | 2018（平成 30）年／69 歳 | | |
|---|---|---|---|---|
| 前行程 | 自宅発 | 4 月 2 日(月) | | door-to-door 51 日間 |
| 本番行程 | 現地<br>88 か寺参拝 | 4 月 3 日(水)～5 月 16 日(水) | 44 日間 | |
| 1(特別行脚) | 高野山参り | 5 月 17 日(木) ～5 月 21 日(月) | 5 日間 | |
| 後行程 | (黒河道ウォーク) | 5 月 22 日(火) | 0.5 日間 | |
| | 自宅着 | 5 月 22 日(火) | 0.5 日間 | |
| 備考 | 本札 88 か寺のみの通し・順打ち、高野山奥の院まで歩いた。 | | | |

大香（だいこう）ブランド老魂（ろうこん）サブタイトルは、
『無限無窮(６８６９；むげんむきゅう)　再活大作戦』
(「掛け軸納経＆一の宮参拝ロード」)

本書は、実地踏査中の歩いている時に浮かんで来た諸々の雑念を少し整理して、自分の中のもう一人の自分（影）に対する報告書、自家撞着問答集です、遊び心をランダムに並べて書いたものです。あの世に持って行く自分史の一端です。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

この間における様々な出来事は山ほどありますが、本書は要点を記述したものです。本書は、実地踏査中の歩いている時に浮かんで来た諸々の雑念を少し整理して自分の中のもう一人の自分（影）に対する報告書、自家撞着問答集です、遊び心をランダムに並べて書いたものです。あの世に持って行く自分史の一端です。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

なお、誤字脱字や日本語文法上の間違いが多数あるはずです、本書は世に問うもの、広く配布するものではないので、考え方や過ちを指摘されても、批評・批判されても浅学菲才の私にとって、如何ともし難く詮無いことです、性格（性質）の投影故にこれを以って私の限界です。

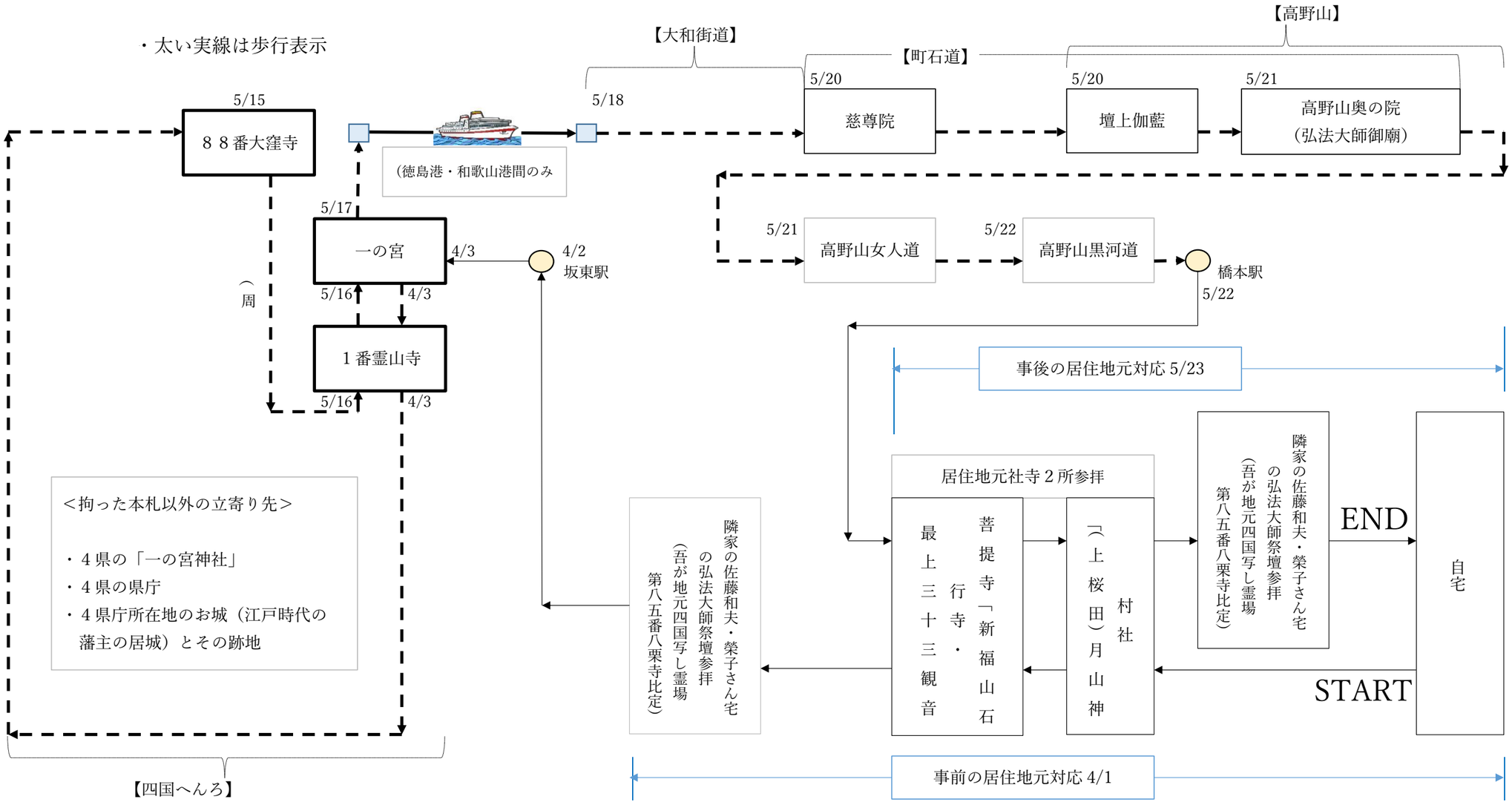
可笑（おか）しな処に気付いた場合は、読み手のお方が、その聡明な頭脳を以って、自由に解釈して貰えればいいし、想像力と創造力を逞しく発揮し、ご自分の世界へ反映して貰えればそれで結構でございます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

四国遍路については、数多くの紀行文や案内書や学術書が販売されており、浅薄な私の及ぶ処ではありません、よって、本書は私の体験を通したことに絞って、私の率直な目線で概要を記述しています。

# 【３回目】「四国霊場８８か寺　参拝順礼」歩きへんろ　＆　高野山参拝の全体行程構図

～　１番霊山寺・スタート→（順打ち；右廻り）→８８番大窪寺・結願→１番霊山寺・戻り→徳島港→
→【フェリー乗船】→和歌山港→慈尊院→（町石道）→高野山奥の院（弘法大師御廟）　～



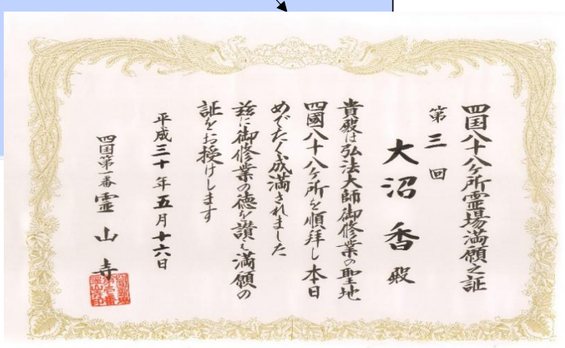
# 【３回目】　四国へんろ概要ルート図／歩いたＧＰＳ軌跡

海上フェリー以外は足跡トラックログ；赤旗印は88か寺札所を指す。

◎左図は、ＧＰＳ機の記録（軌跡）

Covia社の「スマートフォンFLEAZ Que＋N（地図ロイドと山旅ロガーのアプリ）」を携行し、自宅のパソコンに於いて「カシミール３Ｄ（フリーソフト）」により集計・描画させたもの。ＧＰＳ軌跡「（緯度・経度）＆タイムの電子スタンプ機能」を記録したので、細部を確認すると、歩き状況と、立ち寄り場所が判明し、<u>行動の客観的な科学的・デジタル証拠(トラックログ)を保持</u>している事になっている。

また、拡大すると本当に歩いたのか、乗り物を利用したのか、即座に判明する。



# 【　３　回　目　】「四国８８か寺霊場～高野山　歩きへんろ；通し・順打ち」の全行程集計表

＜　携行したＣｏｖｉａ社の「スマートフォンＦＬＥＡＺ　Ｑｕｅ＋Ｎ」（地図ロイドと山旅ロガーのアプリ）と「カシミール３Ｄ（フリーソフト）」により集計　＞

Ｎｏ１

| 累積日数 | 行動月日 月日 | 行動月日 曜日 | 歩行経路（道程） 通過札所名・始終点 | 実歩行距離 km a | 歩行時間 開始 時:分 b | 歩行時間 終了 時:分 c | 歩行時間 時間:分 d=c-b | 平均時速 km/h e=a/d | 天候 | 備　考 | 宿泊先 所在地 | 宿泊先 名称 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前行程 2018 (H30) (前日) | 4月1日 | (日) | 村社「上桜田月山神社」参拝<br>菩提寺「新福山石行寺・最上三十三観音第７番札所岩波観音」参拝<br>隣家の佐藤さん宅の弘法大師祭壇に参拝 | --- | | | | | 晴れ | 地元の社寺に挨拶参り | | |
| | 4月2日 | (月) | １番札所霊山寺近くの民宿に移動 | --- | | | | | 快晴 | 自宅山形駅から新幹線等を利用 | 徳島県鳴門市 | 旅館　大鳥居苑 |
| 本番行程 | | | | | | | | | | | | |
| １日目 | 4月3日 | (火) | (宿)→[大麻山]→［大麻比古神社］→ **１霊山寺**→２極楽寺→３金泉寺<br>→４大日寺→５地蔵寺→（宿） | 21.9 | 7:47 | 17:00 | 9:13 | 2.4 | 快晴 | スタート<br>大麻比古神社で猿田彦大神と同行 | 徳島県上坂町 | 民宿　寿食堂 |
| ２日目 | 4月4日 | (水) | →６安楽寺→７十楽寺→８熊谷寺→９法輪寺→１０切幡寺→１１藤井寺→(宿) | 24.1 | 7:37 | 16:24 | 8:47 | 2.7 | 快晴 | | 徳島県吉野川市 | 旅館　吉野 |
| ３日目 | 4月5日 | (木) | →（柳水庵）→（浄蓮庵）→１２焼山寺→（玉ケ峠）→（宿） | 29.2 | 6:39 | 17:09 | 10:30 | 2.8 | 曇・雨 | 雨具着用（小雨、着脱２回） | 徳島県神山町 | プチペンション　やすらぎ |
| ４日目 | 4月6日 | (金) | →１３大日寺→１４常楽寺→１５国分寺→１６観音寺→１７井戸寺→(宿) | 19.7 | 7:40 | 15:23 | 7:43 | 2.6 | 晴れ | | 徳島県徳島市 | ホテル大崎 |
| ５日目 | 4月7日 | (土) | →［徳島城跡］→［徳島県庁］→１８恩山寺→１９立江寺→（宿） | 27.9 | 7:06 | 15:48 | 8:42 | 3.2 | 曇り | | 徳島県勝浦町 | 民宿　金子や |
| ６日目 | 4月8日 | (日) | →２０鶴林寺→２１太龍寺→（いわや道）→（大根峠）→２２平等寺→（宿） | 19.0 | 7:07 | 16:15 | 9:08 | 2.1 | 快晴 | Ｕさんと相部屋 | 徳島県阿南市 | 喫茶　山茶花の宿 |
| ７日目 | 4月9日 | (月) | →（由岐坂峠）→（山座峠）→２３薬王寺→（宿） | 22.9 | 7:25 | 15:04 | 7:39 | 3.0 | 快晴 | | 徳島県美波町 | 薬王寺宿坊・薬師会館 |
| ８日目 | 4月10日 | (火) | →（札打なし）→（宿） | 28.6 | 6:55 | 14:42 | 7:47 | 3.7 | 快晴 | | 徳島県海陽町 | 遊遊ＮＡＳＡ |
| ９日目 | 4月11日 | (水) | →（札打なし）→（宿） | 32.5 | 6:58 | 15:16 | 8:18 | 3.9 | 雨・曇 | 雨具着用（小雨、着脱２回） | 高知県室戸市 | ロッジ　おざき |
| １０日目 | 4月12日 | (木) | →２４最御崎寺→２５津照寺→２６金剛頂寺→（宿） | 25.5 | 7:03 | 15:25 | 8:22 | 3.1 | 快晴 | | 高知県室戸市 | 金剛頂寺宿坊・檀信徒会館 |
| １１日目 | 4月13日 | (金) | →２７神峯寺→(宿) | 31.1 | 6:54 | 15:10 | 8:16 | 3.8 | 快晴 | | 高知県安田町 | 民宿　とうの浜 |
| １２日目 | 4月14日 | (土) | →（札打なし）→ | 30.6 | 6:57 | 14:45 | 7:48 | 3.9 | 曇/雨 | 雨具着用（途中より本降り） | 高知県香南市 | 旅館　かとり |
| １３日目 | 4月15日 | (日) | →２８大日寺→２９国分寺→３０善楽寺→［土佐神社］→（宿） | 26.4 | 7:39 | 15:36 | 7:57 | 3.3 | 曇/快晴 | | 高知県高知市 | ホテルファースト |
| １４日目 | 4月16日 | (月) | →[高知城]→［高知県庁］→３１竹林寺→３２禅師峰寺<br>→（坂本龍馬像・桂浜）→３３雪蹊寺→（宿） | 24.9 | 7:26 | 16:02 | 8:36 | 2.9 | 晴/快晴 | Ｈさんと相部屋 | 高知県高知市 | 民宿　高知屋 |
| １５日目 | 4月17日 | (火) | →３４種間寺→３５清滝寺→（青龍寺道）→３６青龍寺→（宿） | 30.3 | 6:57 | 15:55 | 8:58 | 3.4 | 曇り | | 高知県土佐市 | へんろ宿三陽荘 |
| １６日目 | 4月18日 | (水) | →(浦の内湾北側)→（仏坂）→（札打なし）→（宿） | 29.3 | 7:02 | 15:27 | 8:25 | 3.5 | 快晴 | | 高知県須崎市 | 民宿　あわ |
| １７日目 | 4月19日 | (木) | →(焼坂峠）→（そえみみず道）→３７岩本寺→（宿） | 27.9 | 6:47 | 16:04 | 9:17 | 3.0 | 快晴 | | 高知県四万十町 | まるか旅館 |
| １８日目 | 4月20日 | (金) | →(片坂峠）→（札打なし）→（宿） | 31.0 | 6:30 | 15:16 | 8:46 | 3.5 | 快晴 | | 高知県黒潮町 | 民宿　日の出 |
| １９日目 | 4月21日 | (土) | →（中村市内）→（札打なし）→（宿） | 19.3 | 7:20 | 14:11 | 6:51 | 2.8 | 快晴 | | 高知県四万十市 | 民宿　月白 |
| ２０日目 | 4月22日 | (日) | →（札打なし）→（宿） | 25.8 | 7:18 | 16:00 | 8:42 | 3.0 | 快晴 | | 高知県土佐清水市 | 民宿　旅路 |
| ２１日目 | 4月23日 | (月) | →３８金剛福寺→（松尾坂越え）→（宿） | 26.6 | 7:05 | 15:07 | 8:02 | 3.3 | 曇/雨 | 雨具着用（途中より本降り） | 高知県土佐清水市 | 民宿　はやかわ |
| ２２日目 | 4月24日 | (火) | →（益野川沿いから山越え）→（三原村）→（札打なし）→（宿） | 30.2 | 6:40 | 14:16 | 7:36 | 4.0 | 雨 | 雨具着用(山越えでは強風) | 高知県三原村 | 清水川荘 |
| ２３日目 | 4月25日 | (水) | →３９延光寺→［靴交換］→（松尾峠）→（宿） | 28.4 | 6:57 | 15:16 | 8:19 | 3.4 | 晴れ | 靴を購入、作業靴に交換 | 愛媛県愛南町 | 札掛の宿 |
| ２４日目 | 4月26日 | (木) | →４０観自在寺→（柏坂）→（宿） | 32.4 | 6:27 | 15:54 | 9:27 | 3.4 | 快晴 | | 愛媛県宇和島市 | よしのや旅館 |
| ２５日目 | 4月27日 | (金) | →（松尾道）→［理髪］→［靴交換］→（札打なし）→（宿） | 23.7 | 7:01 | 15:06 | 8:05 | 2.9 | 曇/晴 | 靴を購入、軽登山靴に交換 | 愛媛県宇和島市 | 民宿　みま |
| ２６日目 | 4月28日 | (土) | →４１龍光寺→４２仏木寺→（歯長峠）→（高森山）→（法華津峠）<br>→４３明石寺→（宿） | 21.2 | 7:20 | 15:59 | 8:39 | 2.5 | 快晴 | 於法華津峠<br>「山路越えて」全歌詞歌唱 | 愛媛県西予市 | 宇和パークホテル |
| ２７日目 | 4月29日 | (日) | →（鳥坂峠）→（十夜ケ橋）→（札打なし）→（宿） | 32.2 | 6:24 | 15:47 | 9:23 | 3.4 | 快晴 | | 愛媛県内子町 | レストハウス　シャロン |
| ２８日目 | 4月30日 | (月) | →（下坂場峠）→（鶸田峠）→（札打なし）→（宿） | 33.7 | 6:30 | 16:59 | 10:29 | 3.2 | 曇り | | 愛媛県久万高原町 | ガーデンタイム |
| ２９日目 | 5月1日 | (火) | →４４大寶寺→（峠御堂越え）→４５岩屋寺→（千本峠）→（宿） | 29.0 | 6:59 | 16:17 | 9:18 | 3.1 | 曇り | | 愛媛県久万高原町 | 桃李庵 |
| ３０日目 | 5月2日 | (水) | →（三坂峠）→４６浄瑠璃寺→４７八坂寺→４８西林寺→４９浄土寺→（宿） | 19.5 | 6:41 | 14:17 | 7:36 | 2.6 | 雨・曇 | 雨具着用（着脱２回）<br>チェックイン後に相原整形外科受診 | 愛媛県松山市 | たかのこのホテル |

| 累積日数 | 行動月日 月日 | 行動月日 曜日 | 歩行経路（道程） 通過札所名・始終点 | 実歩行距離 km a | 歩行時間 開始時:分 b | 歩行時間 終了時:分 c | 歩行時間 時間:分 d=c-b | 平均時速 km/h f=a/d | 天候 | 備　考 | 宿泊先 所在地 | 宿泊先 名称 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ３１日目 | 5月3日 | （木） | →５０繁多寺→５１石手寺→［愛媛県庁］→［松山城］→（宿） | 16.1 | 10:25 | 15:52 | 5:27 | 2.9 | 快晴 | | 愛媛県松山市 | ホテルＡＺ愛媛松山西店 |
| ３２日目 | 5月4日 | （金） | →５２太山寺→５３円明寺→（宿） | 28.7 | 6:47 | 15:30 | 8:43 | 3.3 | 晴れ | | 愛媛県今治市 | マリーナーシーガル |
| ３３日目 | 5月5日 | （土） | →５４延命寺→５５南光坊→［別宮大山祇神社］→５６泰山寺→５７栄福寺<br>→５８仙遊寺→（宿） | 26.1 | 6:43 | 15:47 | 9:04 | 2.9 | 晴れ | | 愛媛県今治市 | 仙遊寺宿坊 |
| ３４日目 | 5月6日 | （日） | →５９国分寺→（宿） | 26.3 | 7:33 | 14:18 | 6:45 | 3.9 | 曇・晴 | | 徳島県西条市 | 小町温泉　しこくや |
| ３５日目 | 5月7日 | （月） | →（遍路道）→６０横峰寺→（遍路道）→６１香園寺<br>→６２宝寿寺（於礼拝所）→６３吉祥寺→（宿） | 23.9 | 7:05 | 14:54 | 7:49 | 3.1 | 豪雨 | 雨具着用（途中より本降り）<br>妙谷川の状況で決行判断 | 愛媛県西条市 | ビジネス旅館　小松 |
| ３６日目 | 5月8日 | （火） | →６４前神寺→（宿） | 32.3 | 6:31 | 14:52 | 8:21 | 3.9 | 曇/雨 | 雨具着用（着脱２回、本降り）<br>メガネを紛失、チェックイン後に購入 | 愛媛県四国中央市 | 蔦廼屋 |
| ３７日目 | 5月9日 | （水） | →６５三角寺→（宿） | 34.7 | 6:08 | 14:57 | 8:49 | 3.9 | 曇り | 白地荘は民宿岡田より紹介 | 徳島県三好市 | 民宿　白地荘 |
| ３８日目 | 5月10日 | （木） | →６６雲辺寺→６７大興寺→６８神恵院→６９観音寺→７０本山寺→（宿） | 29.7 | 6:20 | 16:40 | 10:20 | 2.9 | 曇/晴 | | 香川県観音寺市 | 本大ビジネスホテル |
| ３９日目 | 5月11日 | （金） | →７１弥谷寺→７２曼荼羅寺→７３出釈迦寺→捨身ケ嶽（我拝師山）往復<br>→７４甲山寺→７５善通寺→（宿） | 25.0 | 6:22 | 15:35 | 9:13 | 2.7 | 快晴 | 念願の「捨身ケ嶽」参拝 | 香川県善通寺市 | 善通寺宿坊 |
| ４０日目 | 5月12日 | （土） | →７６金倉寺→７７道隆寺→７８郷照寺→７９天皇寺→８０國分寺→（宿） | 28.8 | 6:54 | 15:57 | 9:03 | 3.2 | 快晴 | | 香川県高松市 | えびすや旅館 |
| ４１日目 | 5月13日 | （日） | →８１白峯寺→８２根香寺→８３一宮寺→[田村神社]→(宿) | 26.7 | 6:02 | 15:14 | 9:12 | 2.9 | 雨 | 雨具着用（途中より本降り） | 香川県高松市 | ファミリーロッジ旅籠屋 |
| ４２日目 | 5月14日 | （月） | →［香川県庁］→［高松城跡］→８４屋島寺→８５八栗寺→８６志度寺→(宿) | 28.4 | 6:28 | 15:41 | 9:13 | 3.1 | 快晴 | | 香川県さぬき市 | 旅館　富士屋 |
| ４３日目 | 5月15日 | （火） | →８７長尾寺→（前山おへんろ交流サロン）→（女体山）→**８８大窪寺**→（宿） | 29.6 | 5:37 | 15:14 | 9:37 | 3.1 | 快晴 | 88番大窪寺で結願証受領 | 香川県東かがわ市 | 白鳥温泉 |
| ４４日目 | 5月16日 | （水） | →（大坂峠）→（卯辰峠）→**１霊山寺**→大麻比古神社→（宿） | 38.2 | 5:57 | 16:37 | 10:40 | 3.6 | 晴れ | １番霊山寺・大麻比古神社にお礼参り<br>１番霊山寺で満願之証受領 | 徳島県鳴門市 | 民宿　観梅苑 |
| ＜以下　高野山向け＞ | | | | | | | | | | | | |
| ４５日目 | 5月17日 | （木） | １霊山寺→（徳島港）→【フェリー乗船】→（和歌山港）→（和歌山城）→（宿） | 23.3 | 5:29 | 15:04 | 7:22 | 3.2 | 晴れ | 左記数値データは歩行分のみ | 和歌山県和歌山市 | ビジネスホテル川しま |
| ４６日目 | 5月18日 | （金） | →（大和街道）→（宿） | 17.4 | 9:44 | 15:09 | 5:25 | 3.2 | 曇・晴 | | 和歌山県岩出市 | ビジネスホテル岩出 |
| ４７日目 | 5月19日 | （土） | →（大和街道）→（粉河寺）→（宿） | 24.5 | 7:42 | 15:26 | 7:44 | 3.2 | 曇/晴 | 西国霊場３番粉河寺参拝 | 和歌山県かつらぎ町 | きくや旅館 |
| ４８日目 | 5月20日 | （日） | →（大和街道）→（慈尊院）→（丹生都比売神社）→（二つ鳥居）<br>→（高野山大門）→高野山壇上伽藍→（宿） | 26.6 | 6:02 | 16:03 | 10:01 | 2.7 | 快晴 | 高野山町石道<br>金堂＆根本大塔＆御社にお礼参り | 和歌山県高野町 | 宿坊　成福院 |
| ４９日目 | 5月21日 | （月） | →高野山壇上伽藍→高野山奥の院・弘法大師御廟（大満願;成満） | 13.6 | 8:47 | 16:44 | 7:57 | 1.7 | 快晴 | 21日は大師の月縁日<br>大師御廟にお礼参り、ここに大満願 | 和歌山県高野町 | 宿坊　地蔵院 |
| 〃 | 〃 | 〃 | →（女人道ウォーク）→（宿） | | | | | | | | | |
| おまけ | | | | | | | | | | | | |
| ５０日目 | 5月22日 | （火） | →奥の院→（楊柳山）→（黒河道ウォーク）→（橋本駅） | 17.5 | 5:33 | 10:30 | 4:57 | 3.5 | 晴れ | ――― | ――― | ――― |
| 〃 | 〃 | 〃 | （橋本駅）→（山形駅）→（帰宅） | ――― | | | | | | 橋本駅より帰宅へ | 山形県山形市 | [自宅] |
| 後行程 | 5月23日 | （水） | →（帰宅後）<br>→菩提寺「新福山石行寺・最上三十三観音第７番札所岩波観音」参拝<br>→村社「上桜田月山神社」参拝<br>→隣家の佐藤さん宅の弘法大師祭壇に参拝 | ――― | | | | | 晴れ | 地元の寺社にお礼参り | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **遍路道ルート沿い**実歩行距離合計(沿面距離) | 1,322 | km | ← 26 → | | 1,296 | ←遍路道ルート沿い実歩行距離（水平距離） |
| １日歩行平均 | 26.4 | 〃 | 8:26 | 3.1 | | |
| | | | 時間・分 | km/h | | |
| 四国内１日当りの最長(5/16) | 38.2 | km | (5/16) | 10:40 時間・分 | | |
| 四国内１日当りの最短(5/3) | 16.1 | km | (5/3) | 5:27 時間・分 | | |
| | 距離 | | 所要時間 | | | |
| 四国内のみの実歩行沿面距離 | 1,199 | km | | | | |
| | 27.3 | | 8:36 | 3.2 | | |

（注１）四国へんろ（１番霊山寺→88番大窪寺→１番霊山寺）を周回し、高野山までの実歩行距離は1,322km、四国内だけは1,199kmとなった。

（注２）ルート沿い計画距離（水平距離）に対して実歩行距離（沿面距離）が、26kmほど長くなった理由は、上り下りの勾配、宿へのアクセス、コンビニ・スーパー・食堂、遍路道沿いの名所旧跡への立ち寄り等ジクザク歩き方の影響による。

# 第３回目「四国へんろ」のこと（概要）

第１回目 2015(平成 27)年の四国「108 か寺（本札 88＋別格 20）の順打ちへんろ」、第２回目 2017(平成 29)年の「本札 88 か寺の逆打ちへんろ」に続き、今回第３回目（以下「今回」と称することがある）の「本札 88 か寺の順打ち（＋　四国から高野山へ)」の歩きへんろを行ったことから、その概要を整理したものです。書籍などにすでに掲載されているものではなく、実体験を通し私の視点から率直に感じて見たものを取り上げます。

今回の行動の概要・日程は前記Ｐ３～Ｐ６のとおりです。概要の要点は、遍路道ルート沿い実歩行距離合計(沿面距離)は約 1,322km、１日平均の歩行距離は 26.4km-歩行時間は８時間 26 分-歩行時速は 3.1km となりました。なお、四国８８か寺霊場ルートのみでは 1,199km となりました。

以下、図柄として記載した国土地理院地図の中のくねくねの実線（赤・紫・緑の色）は、今回携行した GPS の軌跡（自動記録）であります。また、断りのない限り写真は私が撮影したものです。

## １．行程

2018(平成 30)年４月２日(月)の朝、山形駅より新幹線に乗り、岡山で四国行きに乗り換え、１番霊山寺（徳島県鳴門市大麻町）近くの旅館大鳥居苑に投宿した。

翌４月３日(火)霊山寺をスタートし、順打ち（右廻り・右旋）の参拝・納経により 43 日目の５月 15 日(火）88 番大窪寺（香川県さぬき市）に到達し、結願（同証を受領）した。引き続き、へんろ道に歩を進め白鳥温泉（ 香川県東かがわ市入野山）に投宿した。

翌５月 16 日(水）は、大坂峠・卯辰峠を越えて１番霊山寺に戻り、円弧を形成（円環成就）し、満願之証を受領した。

それぞれの証は、寺側が私の提示した納経軸の朱印を確認して発したもの。実へんろ歩行正味 43 連泊 44 日間を要した。　この日は霊山寺より少し離れた民宿－観梅苑に投宿した。

45 日目５月 17 日(木）は高野山を目指して引き続き歩くこととした。宿から歩き始め１番霊山寺で参拝し、徳島港まで歩き、そこから和歌山港までの海上はフェリーに乗船し、下船後の和歌山港から歩き始め、当日は和歌山市内散策を行い、中心部のビジネスホテルに投宿した。翌日からは歴史の道「大和街道（和歌山⇔奈良県大和)」を東進し、慈尊院（和歌山県九度山町）からは高野山向けに「町石道」を歩き、48 日目の５月 20 日(日）に高野山聖地の一つ「壇上伽藍」に到達した。

翌日 49 日目の５月 21 日(月）は宿から壇上伽藍に戻り、そこを基点としてもう一つの聖地「奥の院」向けに歩き、弘法大師が入定されている（死去では無く永遠の瞑想に入っていること）御廟に到達した、丁重に報告と感謝の御礼参りをし、ここに大満願（成満）を果たし、今回の四国へんろの終焉とした。

## ２．遊び心

### （１)「大香ブランド老魂サブタイトル」の設定

老魂サブタイトルとは、自らの心に活力・推進力を入れるためのキャッチフレーズのこと、『無限無窮（６８６９；むげんむきゅう）　再活大作戦』と設定した。

a．サブタイトルの名付け

❑[1]私の年齢と関係する、西暦 1949(昭和 24)年 6 月生まれなので、へんろの時は満 68 歳であるが、69 歳直前であり、いわば橋渡しの時期であることから命の繋ぎ・命のバトンタッチを念じたものである。

❑[2]6（むっつ）のむは無（空っぽ）のむであり、8 の八は末広がりのHappy（幸せ）の 8、そして 8 を横にすれば∞（無限大）であり、68 歳の 68 を「無限・虚空・無空」（限りがない）とする。

❑[3]69 の形状は、勾玉（図－1 上）が二つ合わさった形にも似ている。69 は Six(シックス) &Nine(ナイン) と謂われ、陰陽合体の象徴（同図下／永遠に陰陽のせめぎ合いが生じ勝負は付かない）として写る。また、69 歳の 69 は「むっ＋きゅう」であり無窮に繋がる。陰陽の合一は何かにと永遠の繁栄を約束するものである。なお、勾玉は陰と陽———月と日（太陽）———を具象化したものとも謂われる、図－1 下はそれを模した陰陽太極図である。

図－1

❑[4]ところで、余談だが、この二つの数字を Positive な心で「加乗」する（減除は Negative に付き採用不可）と面白いことが出現する。『正・反・合』の成せる技である。

（加）6 + 9 = 1 5　⇒　1 + 5 = 6（6 9 の左側）

（乗）6 × 9 = 5 4　⇒　5 + 4 = 9（6 9 の右側）

————↓↓

6 9　（むっきゅう＝無窮）

b．メモタイトルの名付け

メモタイトルは『掛軸納経＆一の宮参拝ロード』とした。

過去 2 回のへんろにおいては、納経帳を持参したが、少し格調性が欲しくなり今回は納経軸（掛け軸）を持参することとした。携行の仕方に十分な留意が必要と思い、同軸を購入するとビニール製の袋が付属するが防護に問題ありと見て、塩ビ管類似の硬質の筒を購入して、これに収納・持参（図－2）した。仕上りは後記図－36 のとおりになった。

図－2

（2）アオキ（＝青木）葉と真水の携行

過去 2 回の四国へんろにおいても背負った、この二つを背負った意図は 1 回目の四国へんろ報告書に記載したことからここでは真水のことのみを記述する。

淡水（真水）は男性象徴であり、海は海水で女性象徴である。弘法大師自ら掘られたと云う井戸（図－3）から水が湧く 66 番雲辺寺において、清水（真水）を汲んで「(・3) 雲水」と名付け、吾が地元菩提寺は石行寺の神滝から汲んで背負って来た真水と交換した。

図－３

[1]その雲辺寺は四国霊場で最も高い標高 911m にあり、その山頂から清水（真水）が湧くという神秘性があること。
[2]私の誕生日は６月６日で６６番に繋がること。

[3]行く雲と流れる水の如く、定めなく諸国を彷徨（ほうこう）して歩く行脚（あんぎゃ）僧の心も養いたいと思ったこと。

３．『歩きへんろ』としての決め事（決意）

次のことを肝に銘じてスタートしたが、何とか貫くことが出来た。

① 荷物を本堂および大師堂まで背負い切り、参拝する時　は、背負った荷物を降ろさない。本堂に着くと直ぐに荷物を降ろしたくなるが、不用意な置き放しは盗っ人の餌食になる！

② 背負った荷物を宿などの他所・他人に預けない。まったく予期せぬ想定外の事が世の中には起こり得る、可能性がある。よって、何時の場合も自分の荷物は常に身の傍に置くこととしている。
[1]預けた所が火災（延焼・類焼だってあり得る）になる、盗難に遭う。
[2]大地震の場合に預けた荷物が津波に浚われる、土に埋る。

③ 札所と札所を繋ぐ遍路道ルート上では公共交通機関や接待の乗用車に乗らない。乗ってしまえば、自ら打ち立てた“歩くこと”の誓いを自ら放棄したことになる。

４．88 か寺霊場参詣の始めと終り

（１）今回の始め

その昔、お寺を開山・開創する時には、必ず地元の氏神様に断って、許しを得たという仏法上の道義があったと云われている。四国霊場の境内に行くと殆ど（全て？）に、その境内の一角または隣接する場所に鳥居で仕切った（結界した）神社が鎮座している。いわゆる“護法善神、守護神、鎮守社”を祀っている。

私はこの精神に習い、４月３日(火)のスタート時は、１番霊山寺に行く前に大麻比古（おおあさひこ）神社―――現在の祭神は大麻比古大神・猿田彦（さるたひこの）大神（おおかみ）（その昔は霊山寺の奥の院に鎮座）―――の奥の院（峯神社）がある大麻山（図－４）に登り、同社を参拝し、下って、大麻比古神社本殿に参拝・納経し、道分けの神である『猿田彦大神』に同行を乞い願い出た。つまり、へんろの無事を誓い護法善神として敬意を表するために参拝したもの。その後に１番霊山寺に参拝した。こうしてお大師様との“同行三人”（私、猿田彦大神（さるたひこのおおかみ）、お大師様）となった。

図－４

（２）今回の終り

88 番大窪寺で結願を果たし、翌日５月 16 日(水）に１番霊山寺に戻り、満願の参拝を行った、しかし、ここで終わらず最後に、大

麻比古神社本殿に出向き、同行して貰った『猿田彦大神』に感謝とねぎらいの御礼をして（再度御朱印を貰った）お別れとした。

（3）円環成就

過去の２回同様に今回も結願（88 番大窪寺）で終わらずに、スタートの札所（１番霊山寺）まで歩き通して図－5のとおり円環を成して閉じた。

図－５

88 番大窪寺で結願の時、そして１番霊山寺に戻って満願の時の心情についてであるが、嬉しさはあったものの特別の高揚感は無かった、両手のこぶしを突き上げて雄叫びを挙げるような力みの感情は湧いて来なかった。“あら、終わっちゃった！” あっけなかった。前２回も同じであった。

“ あれだけ足豆の炎症で悩まされながらもここまで頑張ったのに、なぜ高揚感が湧かないのか、なぜ喜びが爆発しないのか、素直に有頂天になってもいいではないか ”と、そういう感情を欲しがるような気持ちが湧くのだった。俺の心はねじれているのか、と自虐感さえも覚えるのだった。日常の生活観や性格から来るのだろうが、私には次のようなものが、心の奥底に潜んでいるからだと思う。

❒[1] 遍路をやっている多くの人達はその手段方法はどうあれ皆『結願する』のだ。私は他人が真似出来ない特別のことをやった訳ではない。 ⇒結願はへんろにとっては当然のこと。

❒[2] 世の中には、私の量り知れない甚大な苦労や難儀を背負って生きている人は数知れないほどいるのだ。 ⇒私の労苦は取るに足らない。

❒[3] 私の人生にとって、へんろが全てではない、他にも歩き旅に行きたいところは山ほどある。 ⇒このへんろは一つの通過点に過ぎない。

（4）過去を含めたスタート日

いつもスタートの日取りに意義（屁理屈）付けをしたくなり、今回を含めた３回のスタート日は図(表)－6のとおりであった。

| 図(表)－６ | | |
|---|---|---|
| １回目 | ２回目 | ３回目（今回） |
| ４月１日 | ４月４日 | ４月３日 |
| 順打ち<br>１番霊山寺スタート | 逆打ち<br>８８番大窪寺スタート | 順打ち<br>１番霊山寺スタート |
| ・初へんろだから年度始めの日にとした。<br>・スタートから歩いた日数が暦の日数と引き合わせて累積数が分り易いことから設定した。 | ・擬死再生の修行に相応しいとし、『４』はその発音は“し＝死”に繋がる・重なる、と言って、『４』は不吉だと忌み嫌う数字を敢えて二つ並べた日を設定とした。<br>・順逆を入れ替えても同じ『４』なので不動心を感じた。 | ４３（し さん）＝死んで散々生き返る、擬死再生儀礼の初日に相応しいとして設定した。 |

５．『一の宮』神社参拝のこと

現在、神道界と仏教界は、組織・機関的には分別はあったとしても、私の心の中は神仏崇敬に区別はなく、この度は、図(表)－７のとおり、４県の「一の宮神社」も参拝することとし実践した。明治の神仏分離以前は、隣接(併設)する札所（寺院）と共に神仏混淆の状態、補完関係にあった。なお、神前においてはまずは『祓詞（はらへことば）』を朗誦し、次に般若心経をも読誦して参拝した。

| 図(表)－７ | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 大麻比古（おおあさひこ）神社 | 土佐神社 | 注１別宮大山祇（おおやまづみ）神社 | 田村神社 |
| 場　所 | 阿波の国（徳島県） | 土佐の国（高知県） | 伊予の国（愛媛県） | 讃岐の国（香川県） |
| 隣接(併設)注２札所 | １番霊山寺 | ３０番善楽寺 | ５５番南光坊 | ８３番一宮寺 |
| 注３祭　神 | 大麻比古大神（おおあさひこ）<br>猿田彦大神（さるたひこおおかみ） | 味鋤高彦根神（あじすきたかひこねのかみ）<br>一言主神（ひとことぬしのかみ） | 大山積大神（おほやまつみおおかみ） | 田村大神（たむらのおおかみ） |

（注１）瀬戸内海の大三島にある大山祇（おおやまづみ）神社（本宮）は、神仏混交・神仏共存の時代にあっては、山の神と海の神の「総鎮守」と称された。本宮へ移動するためにはバス利用を伴う故に、本宮から勧請した大山積大神（おほやまつみおおかみ）を祀る別宮を参拝した。勧請だから神通力・神威力は同じである。

（注２･３）江戸期までは神仏習合の時代につき、寺院は神宮寺の役割を、神社は護法善神の役割を果たし、相互補完の関係にあった。＜別記（補完）－３＞を参照のこと。

６．カップ麺

昼食は、食堂・レストラン・コンビニなどで摂ったが、地方に行くとそのような処はなかなか無い、小さなお店を見付け、大概置いているカップ麺を４回食べた。“お湯を頂戴したいが”と頼むと、どこのお店も快く沸かしてくれた。こうして食べると特に美味しく感じた。（図－８）このカップ面を昼食に利用す

図－８

ることは、過去２回のへんろでは気付かなかったが、下記する魚里さんから教えて貰ったもの。

７．お世話になったこと

色々な人達からお世話になったが、中でも宿を提供下さったご主人・女将さんには格別のお世話・もてなしを賜った。建物や住宅設備に新旧はあるが、どこも小綺麗！　民宿は家庭料理が中心だが、中には調理師や栄養士の免許を持っているのか、と思うほど都会的センスのある上品な料理をご馳走になった、菓子類の接待、朝に昼食用のおにぎりの接待、洗濯・乾燥機使用の接待など、それぞれの宿の特徴あるお接待を沢山受け賜った。心より感謝している。

沢山のお遍路さん（純粋な歩き徹底派、公共交通機関ミックス派、自転車・バイク利用派、マイカー利用派、バスツアー派、お友達タクシー派など）と宿で、休憩所で交流させて頂いたが、中でも相部屋となったお二人と生まれが山形の計３人のお遍路さんを次に取り上げたい。

（１）兵庫県淡路島にお住いの魚里（U）さんとのこと

６日目の４月８日(日)、22 番平等寺に直近の民宿山茶花の宿で相部屋（20 畳位ある広い部屋）させて貰った。経過は、数日前の確認時は満杯で断られていた、宿を取りたいこの周辺には平等寺宿坊はあるが、受け入れ態勢は少人数で満杯、他に善根宿があるようだが泊まりたくない、次の宿となるとへんろ進行方向には 11km 位、その反対方向６km ほどの所に宿はあるが、左右足豆の炎症があってどうしてもそれだけは避けたかった。この状況下思案していた。前日 19 番立江寺近くの食堂でたまたま一緒になったUさん（現役時代は土木建設関係、東日本震災では４回？ほどのボランティア、モンベルの幅広ウォーキングシューズ、足豆はまったくなし、両足のテーピングもなし、遍路は３回目？、遍路の最中娘さんと合流しリッチに食事？　60 歳台半ば？）に、相部屋をお願いしたところ、快諾を得て泊まれた、本当に有り難かった。なお、Uさんとはこの後、離散・合流を繰り返し、同宿（以降は部屋は別）が何回もあり、様々なことで懇談させて貰った。

Uさんは、身長は高く（180cm？前後）足も長いことから普通のテンポでも私は直ぐに離された、にも係らず私と同宿になるということは、かなりスピードを抑えて余裕を以って景色を楽しみながら、念入りに参拝したのではないだろうか。

（２）鹿児県南さつま市にお住いの宝門（H）さんとのこと

14 日目の４月 16 日(月）33 番雪渓寺向かいの高知屋に相部屋（６畳位）させて貰った。数日前から予約を依頼したが満杯ということであった、１km 位手前には別の民宿はあるが、雪渓寺を打った後に戻らなければならないことからこれを嫌い、どうしても高知屋に泊まりたかった、途中で知り合っていたHさん（現役時代は市職員、遍路は逆打ち含め４回目？で、今回は 88 札に加えて別格 20 か寺霊場参拝とお城の全てに立ち寄って拝観、シリオ社の軽登山靴、当初は手拭いで足を蒔いていた、足豆なし、60 歳台半ば？）に前日相部屋をお願いしたところ、快諾を得て泊まれた、本当に有り難かった。なお、Hさんともこの後、同宿が何回かあり、様々なことで懇談させて頂いた。

私の参拝対象は８８か寺のみであるが、Hさんは別格２０か寺をも打ちながら、かつ全てのお城を拝観！　歩く距離は私よりも相当長い（３割増？）のに私と同宿になるということはかなりのスピードと馬力があるということ。(私が遅いのだ。)

※；39 日目の５月 11 日(金）善通寺宿坊において、久しぶりに前出UさんとHさんと合流したことから、Hさんの部屋で、焼酎をご馳走になりながら３人で歓談した。サプライズ！

（３）東京都江東区にお住いの斎藤（Ｓ）さんとのこと

26 日目の４月 28 日(土) 宇和パークホテルの夕食時に私の席に来て声をかけられた。初めての遍路で今回は区切り打ち、何と私と同郷の山形市内お生まれの方で、ついつい親しみを感じて話させて貰った。(現役時代は警視庁の警察官、今もその延長？　60 歳台前半？)、母の為に時々山形に来るとのこと。語り口は終始誠実で寡黙な印象を受けた。この方も軽快な足取りで先行された、抜きつ抜かれつも何回か同宿（部屋は別）があった。

帰宅後、斎藤さんが実家に来た際に一献やることが出来た。その時、私のカラオケレパートリーの１曲に入れることになった中島みゆきの「一期一会」の歌を教え貰いました。

８．失敗談

様々な苦楽はあったが、想定外の三大ハプニングを記載する。

（１）その１；靴の交換

ａ．スタート前の靴補修

昨年の２回目へんろ時に履いたシリオの登山靴（重量感あり）を今回もスタート時は履いた。靴の後方踵(かかと)部が特に摩滅していたことから、そこに「靴底の肉盛り補修剤」を塗っていた。また、靴内部への雨の浸透を極力防止するために靴の縫い目にセメダインを隈なく塗っていわゆる目張りを徹底していた。

ｂ．両足の豆炎症

さて、いよいよ歩きへんろに入り、２日目から両足の踵部に内出血炎症（図－９上）が起こり痛み出した。足豆炎症は過去にも経験していたことからなにくそと思い、３日目の４月５日(木) は 12 番焼山寺へ至る「遍路転がし」と謂われる山道（アップダウンが大きい 13km）はグイグイと歩いた。その夜はかなり痛み出した。毎度のことだが、炎症部に持参している針を刺して体汁（豆露・水）を絞り取ったが、なかなか綺麗に抜けず日増しに激痛を伴うようになった。そのことを５日目４月７日(土) の宿において周囲の人に話したら「靴底の肉盛りが悪さをしているのではないか、削ったらどうか」というアドバイスがあった。同宿していた兵庫県の斎藤大工さん（区切り打ち）から靴底を電動ヤスリ（日によって道具を入れ替えるが、たまたま積んでいた。）で削って貰った。硬かったが親身になって一所懸命削ってくれた、削り滓も自分の箒とチリトリで掃除していた。真剣・誠実な無償の奉仕を施す真の姿を見た、とても嬉しかった。

（左足踵）

図－９

原因を考えるに靴を後方から見た図－９下イメージ図で説明するが、斜線の部分が摩滅したが、補修の時にその部分を含め塗り潰した部分まで靴底の水平部よりも肉盛りを大きくしてしまった。その出っ張り部が足の踵に当って悪さをしたという感じであった。削って貰ったので少し楽にはなったが、激しい内出血まで起こした炎症は簡単に収まらなく、これから長い間痛みで悩まされた。結果的には左右両足に豆炎症が出来て、その様子は図－10 とのとおりである。よくぞ化膿しなかった。足裏豆炎症は今回に始まったことではないが、今回は、全 50 日間中 40 日間くらいは悩まされた。

ｃ．２回の靴交換

足に痛みがあるとそこを庇(かば)うような歩き方となり、体重の掛かり方が移動するからであろうが、別の処に豆が出来る。つまり、炎症部が拡散する―――前述のとおりの靴の縫い目の目張り徹底により、靴内の高温多湿の湿気が抜けなくなったことも原因の一つか―――ようになり、我慢しても痛みに気が取

左足　　右足

図－10

られるようになり、景色処ではなくなった、そこで靴の交換を決意した。しかし、欲しい靴を置く適切な靴屋はなかなか見当たらず、それでも我慢の限界かと思い、23 日目の 4 月 25 日(水) 39 番延光寺を打った後に、宿毛(すくも)市内のホームセンター「コーナン」で軽い作業用靴（図－11②）に交換した。これは軽いのはいいが、長い山道や雨の時は持たないなあと思い、取り敢えずの、繋ぎの靴として購入した。

25 日目の 4 月 27 日(金) 愛媛県宇和島市内の東京靴流通センターでちょうど良い軽登山靴（株式会社チヨダの「HYDRO-TECH」／図－11③）が見付かり、これを最後まで履いた。

これら靴の変遷は次のとおり。最初の①→②→③の順で履いたことになる。なお、前の物は、その都度廃棄処分を依頼した。

図－11

d．靴擦れ・足豆対策

靴の選び方等云々については省略する、少し変わった処で、32 日目の 5 月 4 日(金) 伊予北条駅手前のファミリーマートで出会った区切り打ちお遍路さんの方から「ランニング選手がやっているが、ワセリンを足指の間に挟め、５本指の靴下を履くと良い。」とのアドバイスがあったことから、さっそく近くからワセリンを買い、足指に挟んで歩いた、痛みが確実に和らいだ、なお、後に５本指靴下も着用した。インターネットで調べると、「ワセリンは通常のお薬のように、体に何か作用を起こすというものではなく、皮膚の表面に塗ることによって、油分の膜を張り、“外部からの刺激から皮膚を守るためのバリア機能”として働き、また、肌の潤いや水分を外に逃がさないための閉じ込める働きなどもあ。」とある。しかし、逃さないということは汗を閉じ込めてしまうのかな？　一長一短有りや。私は何が何でも歩き通さなければ気が済まない性格故に我慢我慢、辛抱辛抱、忍従忍従で歩き通した。他の遍路から聞くに付け、殆どの人―――２－６－２の社会原理により、80(20＋60)％―――は足豆で悩み、中にはリタイヤしたり、公共交通機関に切り替えたりしているのではないか。しかし、残りの 20％はそういうことでは悩まないのであろう。

（２）その２；相原整形外科受診～（帰宅後お礼状送付済）

右足小指の豆炎症部に針を刺しても、皮膚が硬質化していたことから体汁（体液）を絞り切れず、日に日に痛みが激しくなった。化膿の不安が出て来たことから、30 日目の 5 月 2 日(水) に 49 番浄土寺を打ち、宿にチェックイン後に、愛媛県松山市内の相原整形外科に行き受診（図－12）し、局部麻酔の上

図－12

で１cm 位のメスを入れて貰った。はじめ化膿の心配をしてくれたが、幸いにも化膿していなかった。これで傷口の痛みは消え翌日からはすきっとした。同図上の足指は皮膚がはがれ治りかけた時の様子。　大勢の患者がいた中でもやさしく丁寧な処置を賜った、先生の方から“翌５月３日(木）からは医院（外来患者）は休診となるが、傷の状態を確認したいので来たらどうか”と言われ、休診日に受診した。とても感謝している。

（３）その３；メガネの紛失・交換～（帰宅後お礼状送付済）

36 日目の５月８日(火）新居浜萩生郵便局に入った時に紛失に気付いた。当日８時 30 分過ぎに雨が本降りとなり、メガネ（近視用）が邪魔になったことからズボンの左ポケットに入れたつもりが、雨具ズボンも履いていたこともあり、きちんと入らなかったのだろう。宿の蔦廼屋（つたのや）にチェックイン後にメガネ屋探し（女将さんからヒントを頂いた）を行い、電車で伊予三島駅に移動し、近くの「メガネの三城」に行きメガネを交換した。幸いに在庫のレンズで対応出来た。電車の時間もあり制約された中で店長は丁寧にかつ慎重に適切なレンズを探してくれた、本当に感謝している。

９．他の多彩なお遍路さん

今回も、個性的でユニークなお遍路さんに出会った。

（１）電話にちなむ話

ａ．初日目の４月３日(火）７番十楽寺でのこと、あるお遍路Ａさん「１２番焼山寺に宿坊のことで電話しているが、何回かけても繋がらない」と言っていた。私は「昨日、軽食有無のことで電話したが繋がったよ。」そこでＡさんの携帯の入力を確認した処、電話番号の一字が違っていた。それでは繋がらないわ！

ｂ．８日目の４月 10 日(日)、宿の遊遊 NASA に着いて受付でのこと、あるお遍路Ｂさんに対して、受付の人が「予約を貰っていないなあ！」、そこでＢさんが携帯の番号を確認した処、別の宿であった。この食い違いはへんろみち保存協力会編の地図編に宿の一覧表が掲載されているが、上下一段（一行）違いで電話していたのだ。両方の配慮で、Ｂさんもこの NASA に投宿出来て良かった。

ｃ．16 日目の４月 18 日(水）須崎市内の宿でのこと、一人分の夕食のご馳走が出されているのにも係らずその人はとうとう来なかった、無断キャンセルなのか、宿側の勘違いなのか。ところが、相手の電話番号を確認していなかったので連絡・確認しようがない、宿の夫婦間の静かな口論（電話番号を聞くべきだ！）が聞こえた。（どこにでもよくあること！）

（２）Diversity（多様性）＆　Uniquely（個性的）

人生色々、人は千差万別、百人百様、多種多様である、性善説と性悪説があって、どちらが絶対・優勢かなど、決まっていない。決着が付かない。論語は性善説に基づいた理想論を説き、韓非子は性悪説に基づいた現実論の考えであり、両者は何かと対比される古典だが、ここでも優劣に決着が付かない。ましてや地球より重い人間の個性に優劣はない、客観的に人間量の計量は不可、比較検討の対象にはならないのだ。認識対象の相手Ｙさんは、その人の極々一部を表現しているに過ぎないのだ。その上に、見る方のＺさんだって、その視野は極めて限定的・狭隘な視観である。よって、簡単に軽々に“あの男

は・・・、あの女は・・・”などと評し悪口・陰口は言えないのだ。

ａ．納経しない人達

納経をしていない、つまり御朱印を貰っていないお遍路さん３人と出会った。霊場会や観光業界は、読経の手順や必要な小道具の携行を推奨し、御朱印はマナーだルールだと言っているかもしれないが、それは金儲けの口実である。もしも、以下彼らのやり方に怒り心頭となるのであれば、私は「そもそも寺の参拝・納経は偶像崇拝だ！」と仕返しするのみ。そのような人でもお賽銭は必ず投銭するわけだから文句の言いようがないのだ。

❍[1] ２日目の４月４日(水)、旅館吉野で相部屋となった東京のＹさん“３回目だが今回は納経していない、しかし、本堂・大師堂できちんと御経はあげる。”

❍[2] ４日目の４月６日(金)、15 番国分寺、ある方と懇談する“３回目だが今回は納経していない、ただただ、ありがとう・ありがとう・ありがとう、と言うだけ。”

❍[3] 14 日目の４月 16 日(月)、31 番竹林寺の遍路道下りで、68 歳の大阪の人“４回目だが納経していない、また金剛杖はこのようにダブルストックに変えた。”

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

元を質せば“遍路あるいは遍路の参拝”に「すべき論！は無い」のだ。参拝の形式とその心は、自身のもう一つの自分との向合い方如何、自分の中の良心との自問自答なのだ、と思っている。参拝のかたちに他人がとやかく理屈をこねて論じても所詮はまったく通じないもの。

ある宿で「遍路のかくあるべき論」を語って持論を得意気に展開する数人に出会った。自分の心の中で思う・ほざくのは自由勝手、しかし、「べき論」を他人に向かって語るな、と言いたい、そんなことは私にとって意味がない。個人の人生で偉くなった、何々職に就いている、とか言っても所詮はたかが自分だけの舞台でもがいた、自分の殻の中でもがいている、に過ぎない。『専門馬鹿』の領域で威張る可哀そうな人だ。この「超大宇宙」の中で、個人のことは砂粒にも満たない。奢るな、自慢するな、傲慢になるな、慢心するなということ。

ｂ．11 日目の４月 13 日(金) 民宿とうの浜で京都市内の 78 歳の方、「５年ぶりに３回目の遍路、癌を患った、治りかけたと思ったら妻も癌、やっと落ち着いたので遍路に出た。町内会の役員をやったが神社の祭典は氏子がやるもの、地蔵盆祭りは町内会直営、宗教色はない。子供達の成長と年寄りの長寿を願う祭りである。」と語られた。話は人生道に及び、百人百様、得意な分野で力を発揮すれば良い、人間相互は比較対象にならず。一方得意分野があるということは、それ自体は限定の世界、したがって、己惚れたり、傲慢になったりする必要はない、と一致した。

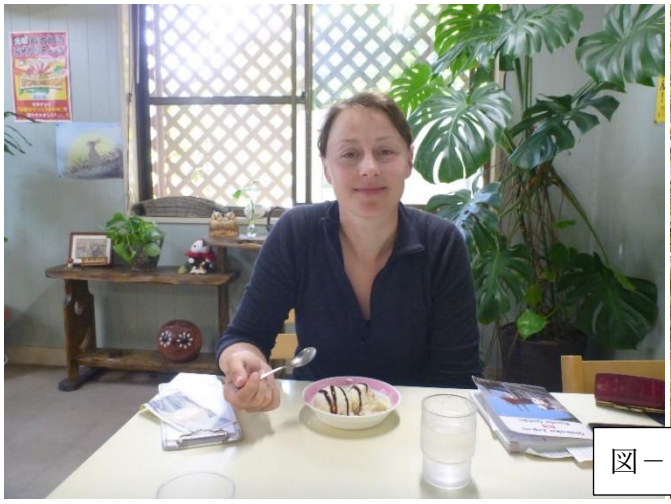
ｃ．17 日目の４月 19 日(土) まるか旅館で、埼玉県の 72 歳？の方、歩き遍路の決意をしてスタートしたが、右側腰部にしびれが来たことから外科医受診、徳島で５段変速の中古自転車購入し歩き遍路から自転車遍路へ転身。しかし他方で歩行遍路を断念したことを悔やんでいた、高知で登山靴を取り替え購入､自転車で 10km も間違った、と言っていた、辛抱強く柔軟で何でもありの自由自在な素晴らしいお方。

ｄ．40 日目の５月 12 日(土) 宿でのこと、脳梗塞（脳内出血）を患い右半身不随の方、話すこともおぼつかないが、電車・バス・タクシー等の公共交通機関を一切使わないという純粋な「通し打ち歩き遍路」(68 歳)、それも逆打ちをしていた。肩に掛けたバックを外そうともがいていたる時に女将さんが手伝おうとしたら“否、自分でする”と断り何とか自分で外した。コミュニケーションを取るのも大変、儘ならない不自由な身体で一所懸命な姿に感銘を受けた、自分が恥ずかしくなった。「通し打ち」（１回で 88 か寺全部を参詣する。）は健常者でさえも簡単なことではありません、あんなに不自由な体で挑戦してい

ました、ただただ脱帽！　感激した。

ｅ．私が出会った歩き遍路の最高齢は 78 歳、77 歳は 2 人、中にはもちろん若い人もいるが、大半は 60 歳大であった。例え、一部に電車やバスに乗ったとしても、四国札所は奥深い所にもあり、必然的にアップダウンの激しい遍路道（山道／長い所は 10 数 km も連続歩行を強いられる）を歩くことになり、彼らの歩くという情熱には脱帽である、それこそから元気と勇気を貰えた。理論理屈の世界ではない。世の中、“やらない・やっていない・出来ない”のにも係らず、やったが如く弁じ、あるいはさも事実であるかのように文字にしている人が多々いる、エセ人間と見て私は「馬耳東風と面従腹背」で適当にあしらっている。言ったとおりやらないのは、言行不一致は、言葉を発した内容は嘘を付いたことと同じ罪なのだ。

ｆ．デンマーク（首都コペンハーゲン）から来た女性一人のお遍路さん。サリーンさん（ホテル勤務・32 歳？／図－13）といい私と抜きつ抜かれつ、宿も 5 ・ 6 個所同宿となった、スマホの翻訳アプリで会話、刺身は殆ど食べないがものによっては薄いスライスは少し食べられるという、母に浴衣（ゆかた）をプレゼントしたいが何処で買えるのかと質問された、 3 月 31 日入国し 6 月 1 日に出国予定、結願後東京に立ち寄り、その後友人のいる富山に行くとのこと。山道で・コンビニで・宿で菓子類・飲み物を奢ったり奢られたりした。一時右脚部の筋を痛め荷物を運送依頼する時もあったようだ、日本酒が好きであった。きっと無事に結願したことと思う、おめでとう！



図－13

ｇ．この方は遍路ではないが、14 日目の 4 月 16 日(月）31 番竹林寺を過ぎた処の田んぼ沿いの道路空き地に小さなテーブルを置いてお茶を接待しているおじさんに出会った。彼曰く「大相撲で大関に昇進した時の口上は『私は相撲道に精進する』と言うが、本当は『人生道に精進する』と言わなければならない。相撲道は相撲界の限定された世界、人間が大きくならない、だから不祥事が起こるのだ。」なるほどそのとおり。

10．宿の一風景

図－14a は 20 日目の 4 月 22 日(日)「民宿旅路」の宿、右側の二人は上記サリーンさんを含めデンマーク人（たまたまここで一緒になったとのこと。）この写真の後、ビールと日本酒で大いに盛り上がった。左側はバイク遍路の方、左手奥は宿の御主人と女将さん。

図－14b は 40 日目の 5 月 12 日(土)「えびすや旅館」の宿、カナダ人（右側最奥）が一人。女将さんを除き、みんな徒歩遍路だった。とにかく外国人、とりわけ欧米人のお遍路さんが年々増加しているとのこと。私の英語は中学生レベル以下、しかし今は便利な世の中、スマホにグーグルの翻訳アプリをインストールして、これを使用して何回となく外国人と会話を行った。

余談であるが、2017(H29)年 10 月 31 日(火) 22 時～NHK クローズアップ現代＋ナイトタイム経済の

図－14a

図－14b

話の中で、外国人は予め日本語を勉強して来る。会話で通じるか試したいという思いがある、したがって、迎える日本人は日本語でしゃべればよい、ただ、短い文、優しい日本語で話すのがポイント、とのこと。

その二つの宿でのとてもうれしい思い出がある。

○[1] 前出「民宿旅路」でのこと、夕食時に無性に日本酒を飲みたくなり、聞いたところ“無いから仏壇の御神酒を飲んでいいよ”とご主人がおっしゃられた、そう勧められても仏壇の御神酒は断るのが常識というものだろう。しかし、つい“ごちそうになります”と言ってしまった、「どうぞとうぞ」とおっしゃられたので、ご馳走になることにした、それではと、仏壇に燈明（ローソク）と線香を灯し、“南無大師遍照金剛”を 3 回唱え頂いた、格別に美味しかった。

○[2] 前出「えびすや旅館」の女将さんから次のような紹介があった。“外国の人の多くが、部屋にお礼のメッセージを残していく、図－15 は別々の人だが、お客さまが帰った後に部屋の確認に行った処、このようなメッセージが残されていた、お別れの時は一言も触れなかった”と言う。おそらく全部の宿に置いたのではないかと思う、これらを相当数持参するだけでも重さが増す。私には真似の出来ないすばらしい態度だと思う。

図－15

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ところで、別に二つの宿の女将さんから聞いた話、“マナーが一番悪いのは韓国人、次は中国の人（台湾人はよ

い）だ、欧米人はマナーがとても良い。”

私は韓国・中国の人とは出会わなかったが、欧米人は本当にどなたも誠実で真摯な態度であった。キリスト教信仰者が多いせいなのか？　前者その２か国は過度な学歴社会・過激な競争社会と言われるが、そんな人間社会では精神が荒廃しモラルハザードに陥るのは必然であると思う。政治の世界を見ても、国のリーダーを見るに付けどこか狂っている人間集団であろう。その両国に対するヘイトスピーチが問題になっているが、それ自体はもちろん賛同出来ないものの、動機としては、日常におけるその両国の国民性に対する嫌疑によるのではないのか。

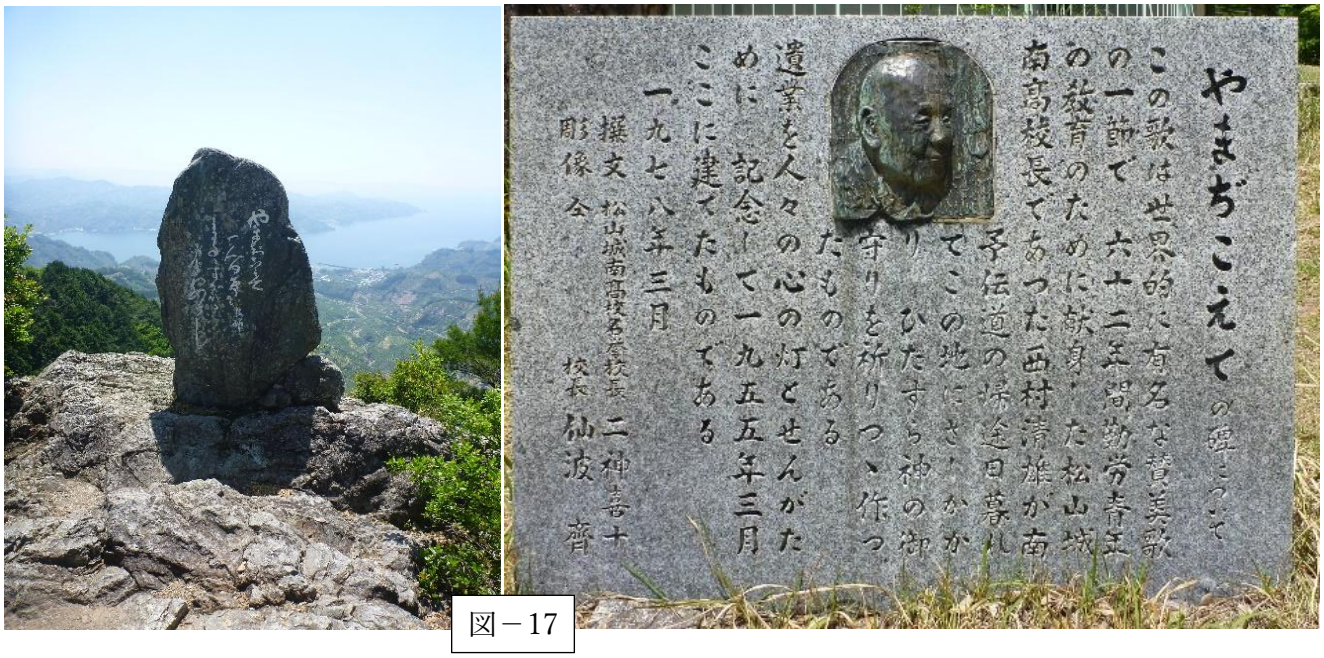
## 11. 法華津峠（ほけつ）と「山路越えて」の歌碑

法華津峠（ほけつ）越えとは、図－16のとおり、昔はもう一つの遍路道であった。また、同峠には二つの碑（図－17）がある。昨年の２回目のへんろ逆打ちを終え、帰宅してから整理している過程で、西村清雄が作詞した『山路（やまじ）越えて』の賛美歌 404 番を知ることになった。その作詞の過程と言葉に感動した、同詩の歌碑が安置されているということからどうしても歌碑があるという所に行きたいと念じていた。

今回は 26 日目の 4 月 28 日(土）快晴、42 番仏木寺を打って、歯長峠から高森山を越え（遍路道では無い山道）法華津峠（ほけつ）に至った、ついに念願の待ちに待った峠の碑に出会った。歌碑の詩を見ながら６番まで全部を声に出して歌った、そして、前回２回目のへんろ終了後に私の創作詞の替え歌を作っていたが、それも歌った。

図－16

図－17右の碑文の表裏を活字化した内容が図－18のとおり。法華津峠（ほけつ）で『山路越えて』について声を出して歌った時のこと。西村の当時の難儀の中で詩を詠い・歌いつつも、ついにはこの峠で仮寝をした、せざるを得なかった、そして、大洲まで夜中に歩き通した情景を想像すると、苦難を前向きに捉える人生の縮図のように思えて、哀惜の念に堪えなく涙が止めどもなく溢れ出るのを覚えた。




図－17

やまぢこえての碑について
この歌は世界的に有名な讃美歌の一節で、六十二年間勤労青年の教育のために献身した松山城南高校長であった西村清雄が南予伝道の帰途日暮れてこの地にさしかかり、ひたすら神の御守りを祈りつつ作ったものである。
偉業を人々の心の灯とせんがために、記念して一九五五年三月ここに建てたものである。
一九七八年三月
撰文 松山城南高校名誉校長 二神喜十
彫像 仝 校長 仙波 齊

顔のレリーフ

山路こえて、ひとりゆけど、主の手にすがれる身はやすけし。
松のあらし、谷のながれ、みつかいの歌もかくやありなん。
峯の雪とこころきよく、雲なきみ空とむねは澄みぬ。
みちけわしくゆくてとおし、こころざすかたにいつか着くらん。
されども主よ、われいのらじ、旅路のおわりのちかかれとは。
日もくれなば、石のまくらかりねの夢にもみ国しのばん。

図－18

## 12. ＧＰＳ精度

歩いた軌跡を客観記録するために GPS 機器を保持し、この度は次の①②の二つを携行した。その目的は性能を比較したかったからである。携行の状態は、図―19 のとおりで、ケースは同じ材質のものではないが大きさはほぼ同じ、類似のものに収納した。両方とも GPS 電波感知部は本体の上部であることから本体下部をケースに差し込むように収納した。

① GARMIN 社の「オレゴン 650（自動記録専用機）」～図－20a が記録；過去２回のへんろはこれのみを携行した。

② Covia 社の「スマートフォン FLEAZ Que＋N」（OS はアンドロイド／地図ロイドと山旅ロガーのアプリで自動記録）～図－20b が記録；これが今回の携帯物。

図－19

図－20a

図－20b

同図は 20 日目 4 月 22 日(日)；天候は快晴、同じ場所（高知県土佐清水市大岐～以布利（いぶり））における GPS 軌跡の記録である、スマホは跳ねないが、オレゴンの方は大きく跳ねる、GPS 電波受信が大きく乱れるのだ。

オレゴンは過去２回ともこのように大きく跳ねることが多々あった、また、トンネルに入ると殆どロスト（補足を失う）状態になる。歩いている時は殆どケースの蓋をしているものの僅かの隙間から GPS 電波を捕捉・感知している。受信環境は双方同じ条件であり、根本的にハード（機器本体）とソフトの両面で差異があるような気がする。Covia 社の本体の性能とソフト（地図ロイドと山旅ロガーのアプリ）の精度が相まってこのように正確な軌跡を記録したことであろう。同社は横浜市の小さな新興企業、ガーミン社はアメリカの GPS 機器専門メーカーで、小人と巨人のようなものであるが、性能には逆の関係にあるような気がする。　なお、スマホについては、日中は機内モード設定の GPS 専用機として使用したが、電源の最低残量は 60%であった。

## 13. 神仏習合・神仏混淆・神仏同座の世界

### （１）四国霊場

図－21 左は 87 番長尾寺、同図右は 80 番国分寺の本堂の大師堂であるが、鈴が下がっている。参拝する前に「鰐口」あるいは「鈴」を鳴らすが、「鰐口」は概ね“お寺”、「鈴」は概ね“神社”の拝殿に下げられている。元々は「どっちがどっち」という明確な決まりはないとのこと。いずれも参拝者の悪霊を祓い清め、神様・仏様をお招きする合図として用いる。

なお、俗説（屁理屈はある）では、「神社 － 鈴 －真水－ 男 － 白」の関係、「寺 － 鰐口 － 海水－女 － 赤」

図－21

の関係性が説かれている。鈴は男のものの象徴、鰐口は女のものの象徴ということか。

図－22は42番仏木寺で右側が本堂、左隣は大師堂であるが、本堂の直ぐ裏手には、天照大神を祭神とする神明宮が祀られている。

なお、この仏木寺の納経の方と話していると“４２”は、『死(4=し)んで世(4)に出(2)る』再生の御寺であるとのこと。

図－23のとおり、84番屋島寺境内は本堂の直ぐ隣に二つの神社が鎮座している。

いずれも“護法善神”の考え方による。記憶では88札所全部の境内に、あるいは隣接して、鳥居で結界する神社が建立されていた。今も神仏習合が根付いているのではないか、うれしくなる。このような大らかさ故に88か寺四国霊場に多くの人が惹きつけられるのであろう。

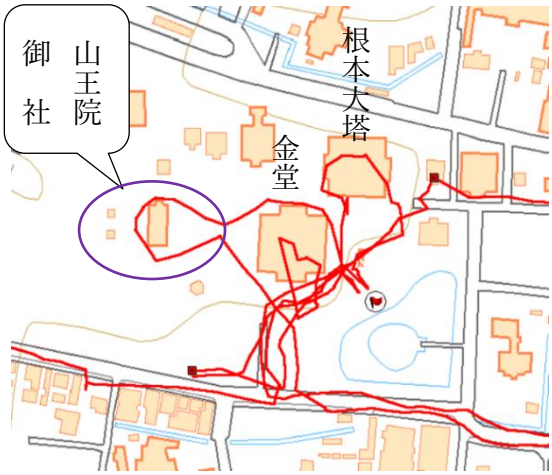
図－22

図－23

ところで、64番前神寺の御詠歌は「前は神　うしろは仏　極楽の　よろずの罪を　くだく石鉄(いしずち)」という。まさしく、88か寺霊場を代表して神仏一如を詠っているではないか。

（２）高野山

大日如来が創造した胎蔵・金剛の両界曼荼羅の世界観を弘法大師空海独自の発想で具現化した場所が壇上伽藍（図－24）である、この聖地（中枢部）仏教施設の中に山王院(さんのう)（御社(みやしろ)）といういわば神社が鎮座している、建立の目的は、弘法大師が高野山の開創に際して、日本古来の神々と仏教との融和のため、高野山の地主神としての丹生(にう)明神と高野（狩場）明神の分霊を高野山の守護神（祭神）として「御社」に祀ったものである。




図－24

図－25左端は山王院の正面、中と右端は御社(みやしろ)の状況である、完全に神社である。それが、真言宗聖地は壇上伽藍の仏

教施設と並んでいる。管理は高野山真言宗総本山の金剛峯寺である、金剛峯寺のホームページには公式に山王院（御社）を掲載している。

図－25

こうしてみると、お大師様は、様々な古来の神祇をそのまま認め、諸仏をそのままに認め、それぞれは大日如来が姿を変えたものであり、化身であるという考え方を示している。密教曼荼羅の金胎両部界は、あらゆる考え方・見方を、そして森羅万象・種々雑多の有り様（無限性、広大無辺）を包容する視座を持つ、何と素晴らしいことか。高野山真言宗総本山の金剛峯寺の取り組みに感激する他は無い。だから、今も多くの人が行きたくなるのだ。私は知識を振り回し独善的で偏った人―――吾が地域のエセ学者肌の人には近付かないことにしている。

仏教施設境内に神社施設を併設するのは、多くを見る限り、仏教関係者はあまり抵抗がなく受け入れている。逆に神社境内に仏教施設は余り見ることは無い。しかし、一部にはある。

14. 36 番青龍寺と 37 番岩本寺間の 3 ルート

高知県浦ノ内湾当りのルートの取り方であるが、３通り（図－26；ＧＰＳ軌跡）あり、いずれも踏査を経験した。１回目（順打ち）は横浪スカイライン歩行、２回目（逆打ち）は横浪から埋立までの湾内巡航船利用、３回目は浦ノ内湾北側（仏坂経由）歩行した。

図－26

15. 三原村経由の３ルート

38 番金剛福寺を打った後、39 番延光寺に向かうルートの取り方について、図－27（GPS 軌跡）のとおり、３回とも土佐清水に回り、順打ちの１回・３回目は山を越えて三原村に抜けた。逆打ちの２回目は、大月から月山（つきやま）神社を経由し土佐清水に回った。なお、山越えを嫌って、打ち戻って四万十（中村）経由で三原村に抜ける人達もかなり多いようである、同図中の点線「打ち戻り」ルート。

図－27

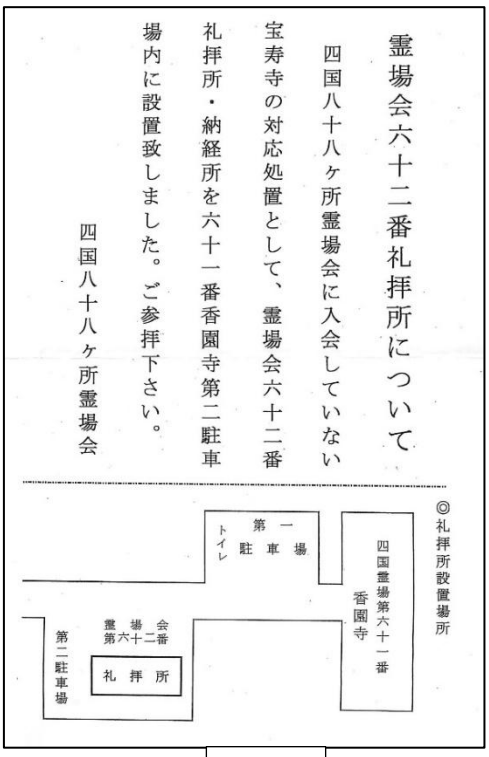
16. 62 番宝寿寺のこと

同寺は、「四国 88 ヶ所霊場会」を脱会し、裁判闘争を繰り広げたトラブルメーカーだが、同霊場会は図－28a のように６１番香園寺の中に礼拝所を設置したのである。香園寺に差し掛かったのは 35 日目の５月７日(月）強い雨の昼過ぎである。宝寿寺の納経についてはこの礼拝所でするか、1.3km 先の宝寿寺本寺に行くべきか、一瞬迷いはあったが、次の理由から同所で納経した。

✓[1]過去の２回は本寺に行っていること。

✓[2]礼拝所の様子を見たかったこと。

礼拝所内部は図－28b 写真、本寺は図－28c 写真のとおり、本寺はどこにでもあるような寺、何か特徴のある寺でもない。本寺に行かないと何か不都合・不具合等の災難があるか、と思いきや何もなし、ある訳が無い！




図－28a

図－28b

図－28c

そもそも、そのように寺の外形を見ればまったく違うものである。本尊は同じ十一面観世音である、宝寿寺の本物の本尊を見ていないものの、像容（形）はまったく異なるだろう。しかし、霊場会は同じご利益が得られるというのだ。意地悪な見方をすれば、88 所全部の本尊を、あるいは本尊に似せたもの（仏像）をどこか一個所に集めてそこで礼拝するようにしてもいいではないか、となる。これではまず観光に資せないということになるが。

一方で、日本には古来、分霊・分社、灌頂という考え方がある。本家本元の本尊に似せて何か（木・石・金属）に刻んで、開眼供養なる儀式を挙げれば、本家・本元の法力と同等のものが分けられる、遷されるという信仰がある。これは神様の世界も同じ。日常生活をしながらも、身近な所で本場霊場巡りと同等の功徳を授かりたい、御経・真言を唱えるなどの仏教儀礼の実践は当たり前としても、同等の神仏の加護を賜り、同等の神威仏光の力をお借りして少しでも心の安寧の恵与に預かりたい、何事にも最高の福徳の果報に預かりたいなど、安直にして諸々の恩恵に浴したいとの願望・欲望・野望がある。それに応えるために安置されているのが、本場を模した『写し霊場・移し霊場・ミニチュア霊場』である。仏の世界における人間欲望の許容化の一端である。辛辣な見方をすれば、寺参りとは、元々は偶像崇拝の範疇だから何を拝んでも善し、ということにもなるが。

図－29

ところで、「写し霊場」の一つに「お砂踏み」霊場がある。（一社）四国八十八ヶ所霊場会が行う一つの出張イベント（図－29）を紹介する。ある会場に 88 か寺各霊場の本尊像（木造）とお砂、ならびに礼拝用品を運搬・設置し、そこに行った人がそのお砂を踏みながら礼拝することで、四国を巡ったことと同じ功徳を授かるというもの。堂々と偶像崇拝をひけらかしての金儲けの極み、それを承知で出かける多くの人間有り。

## 17. 不悪口

図－30

24 日目の 4 月 26 日(木) 40 番観自在寺に、特別大きな字で「不悪口」と書いた B5 二つ折りの紙が置いてあった。右半分が図－30 である。もう半分には「誰しも、悪口を言った経験があると思いますが、他人の容姿や性格を悪く言ったり罵ったりすることで、真の安らぎが得られる筈はありません・・・人の態度や振る舞いに対して悪口を言っても良い結果は生まれません。その言動の善し悪しを自分に置き換え、まずは自分を見つめ直しましょう。」と書かれている。

まったく同感。参拝時の唱え詞（お経）の一つである十善戒（古来より遍路の行動規範と謂われている）の一節であるが、当寺の住職が、その中で特にこの不悪口の訓え・戒めに着目しているということだろう。反面教師として学びなさいということであろう。日常生活で一番陥りやすい人の弱点であるということだろう。だから、住職は啓発のために大きく文字を拡大したのだろう。私から言うのはおこがましいが、とても賢明で理知的な選択だと思う。

私の日常を見渡すにも、男女共に眼前にいない他人の悪口・陰口を平気で言う、徹底的に性格を扱き下ろす人がいる、なぜなのか。僻み・妬み・嫉妬からくる相手攻撃の手段なのだ、要するに心が汚れて、ひん曲がっている、成熟していないのだ、精神異状者なのだ。また、ものごとを口先だけで処理しようとする実行を伴わない知識偏重型の人間だ。知識と現実の乖離を自ら埋めようと努力しないのだ。自分は研鑽せず相手を蹴落として自分の優位を誇るのだ。このような日常にうんざりだ、私はそんな人

には不用意に近付かないことにしている。

ところが、四国へんろは対等互敬（恵）の素晴らしい世界なのだ。一期一会の天空なのだ。

18. 宿に着いてからの対応

当日までの体調、明日以降の天候を確認の上、翌日以降の歩行距離の検討と宿の予約、予約済の所については前日に再確認の意味で電話する、立ち寄り予定個所の確認等を行う。歩いている時はデジカメ写真撮影の他に、気付いたことや発見したこと、替え歌の創作詩などをＩＣレコーダーに音声記録（ボイスメモ）しているので、それを再生しながら思い浮かぶことを含めて、タブレットのメモアプリに記録（入力）する。これらを毎日実施した。宿では、明日の歩く行程しか浮かばない、日常の娑婆のごたごたは浮かんで来ない。本報告書（記録誌）はこのような記録を元に整理したものである。

ところで、民宿・旅館の多く、ビジネスホテルでも、隣の部屋との隔壁の壁厚が薄く、隣部屋のいびき・テレビ音声・話し声がそれなりの大きさで聞こえて来るものだ。声が大きいというよりも、建物の隔壁が安普請（やすぶしん）なのだろう。

19. 高野山への道

（1）大和街道

図－31 上(パンフ)のように奈良盆地の南端、明日香（大和）と和歌山城下を結ぶ約 75km の歴史街道である。江戸時代には和歌山城藩主が参勤交代の道として利用した。もちろん高野山への信仰の道としても栄えた。同図下は私の実歩行の GPS 軌跡である。

私は四国へんろスタートから通算 46 日目の 5 月 18 日(金）和歌山からこの歴史の道を歩き、48 日目の 5 月 20 日(日）朝、妙寺（みょうじ）駅近くの宿から同街道を離れ、早朝に慈尊院（世界文化遺産）に着いた。

図－31

（2）町石道

図－32は私のＧＰＳ軌跡である。道そのものが世界文化遺産である。

まずは慈尊院のこと、弘法大師の御母公(玉依御前)の住まわれた政所、当時高野山内は7里四方が女人禁制となっていたことから、大師のいる同山には行かれず、麓にあるここに滞在し、本尊の弥勒菩薩を篤く信仰していた。大師は母を訪ね、一月に9度（正確に9度という訳ではなく、それだけ頻繁にということの例えだと云われている。）は20数kmに及ぶこの山道を下って政所の母を訪ねて来たので、この辺りに「九度山」という地名が付けられたと云う。

大師が高野山を開創した際に道標として、1町（約109m、110m）毎に木製（板状）の卒塔婆（後に石造物の五輪卒塔婆に建替えられた）を建てたが、それを「町石」と謂い、その道を高野山『町石道』というようになった。高野山壇上伽藍を基点（0番）とし、山麓の慈尊院に至る参詣道に180基、壇上伽藍から奥之院に至る参詣道に36基の卒塔婆形町石（卒塔婆型石碑）が建てられている。町石は道標であり仏塔でもある。

図－32

慈尊院から丹生官省符神社（世界文化遺産）への階段の右手に『180町石』がある。途中丹生都比売神社―――前記で触れた壇上伽藍内に存置の御社が祀る丹生明神と高野（狩場）明神の本社（世界文化遺産）―――を経由し、町石道本道に戻り、大門を潜り『慈尊院側1町石』の建立場所を確認し、高野山壇上伽藍に到達した。道の途中は、畑と交差する所もあり、少し舗装された道もあったが、ほとんどが山道であった。

当日5月20日(日）は同伽藍境内の金堂・根本大塔・御社を参拝し、宿坊（成福院）に投宿した。

（3）奥の院・大師御廟へ

図－33参照のこと。いよいよ5月21日を迎えた。弘法大師（空海）は、西暦835(承和2）年3月21日、62歳の時にここ奥の院の霊窟に「入定」されたと伝えられており、この日はお大師様の月縁日である。朝、宿から壇上伽藍まで戻り、『奥の院側1町石』を確認し、歩き始め、左手に金剛峯寺を拝み、街中を通過し、一の橋から奥の院に入った、杉の大木の中、左右に戦国武将や江戸時代の大名が寄進した無数の墓石（五輪塔が多い、鳥居結界も多数）を眺めながら御廟橋に至った、ここからは聖域の核心部である。

なお、昨夜の宿は奥の院一の橋近くであり、今朝はまっすぐ奥の院に行くことは出来たが、奥の院方面の「町石道」の基点（始点）は壇上伽藍であることから、わざわざそこに戻った。私は常日頃から何かにと、「始終」とか「起承転結」など、もの・ことの入口と出口のけじめを付けたいとする性癖がある。「入・出」等の両極・対極に対して中庸とか、あいまい（ちょうどよい加減）とかの言葉が浮かぶが、それとても陰陽の両極のことを理解・認識している人にだけ宿る精神であろう。

図－33

20. 大満願（成満※）

一礼の上で聖域に歩を進め、突き当りが『弘法大師御廟（拝殿）』（図－34 は正面前景、本当は撮影禁止）である。同御廟（内部は少し薄暗く荘厳な感じ）の中に入り、へんろ報告の参拝をした。さらに左手から大師の入定されている処に回り、頭を深々・長々と垂れ、感謝と御礼の誠の心を奉げた。

その後、納経所に行き、納経軸に御朱印を貰い、ここに**お大師様の月縁日の 21 日に大満願**を果たした！　なお、（※）高野山側では『成満』と称する。

図－34

この 21 日は、前記のとおり入定の日で月縁日である、高野山ではちなんで関連行事を行っていた、遭遇した当日の一端であるが、図－35 の①は大衆レベル、②は若き修行僧のお勤め、③は上位階級僧職のお勤めということ。

六曜は室町時代初期に中国から伝わった暦注であり、本来仏教とは無関係であるが、この 21 日の曜日は『仏滅』、字面（仏さまが入滅）をそのまま貰うとまさにお大師様が入定された日に相応しいではないか？

この月縁日（お大師の入定日）21 日に大満願を果たしたことになるが、日が偶然に重なったことになる、格別の意義・縁起を感じた。

図－35

21．納経掛軸表装

奥の院納経所で、担当の方から納経軸の掛軸表装店（表具店）の紹介があり、どこに依頼しても良かったことから、手慣れている店が良いと思い、中の橋近くのお店に依頼して来た、そして、６月末に仕上がって来た。なお、過去２回のへんろでは御朱印帳を携行し、掛軸は今回が初めてのもの。

この度のへんろを終えて、表装（完成）した納経軸は図－36のとおり。

同軸において、もしも、高野山に行って御朱印を貰わないと、予め指定されている枠なのでその部分は空白となる、それでは中途半端の感は否めないものとなる。

☜　左手中央部の四角で囲んだ所は、「高野山奥の院」の御朱印です。

図－36

22. 高野山のおまけ

以下の二つのウォークは、奥の院の神域を囲むように歩き、神域に分け入ってお大師様と直接対話が出来た素晴らしいステージであった。

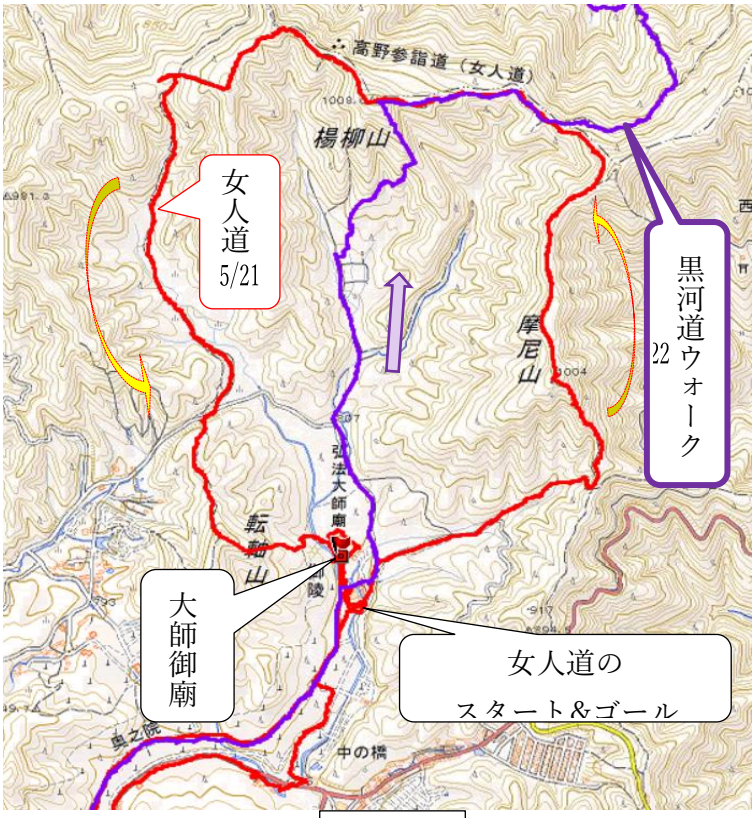
なぜ、最終の5月22日(火) 帰宅日にわざわざ5時間も駆けて17.5kmの黒河道(くろこみち)（道が世界文化遺産）ウォークを行ったのか、

{◉1 女人道(前日ウォーク)囲み線(GPS足跡)の中央に割を入れたかったこと
◉2 最後の最後まで徹底的に身体的負荷を貰いたかったこと} からである。

（1）女人道(にょにん)ウォーク

5月21日(月) 奥の院大師御廟を参拝・納経し、大満願（成満）の後、女人道を歩いた。図－37b（同－37aはパンフレット）において、御廟橋前を基点に左回りに歩いた、なお、転軸山から御廟までは公式なルートではない。なぜならば、御廟の立ち入り禁止地（禁足地）に着くことになるからである。

図－37a




図－37b

高野山は八葉の峰と呼ばれる1,000m前後の山々に囲まれた山上の平坦地で、明治5年に女人禁制が解かれるまで、厳しく女性の入山を規制して来た。高野山への参道としては俗に「高野七口」と呼ばれる街道が通じており、かつては各入口に女性のための籠り堂として女人堂が建てられ、女人信者は御廟を遥拝しながら女人堂から女人堂へ八葉蓮華の峰々を辿ったと謂われ、この道を「女人道」と呼んでいる。いかなる道なのか関心を持っていたことから歩いた。とても整備が行き届いていた。

群生せず一株ずつの九輪草が所々に咲いており、単独歩行の私に微笑みかけて来るようで妙に嬉しかった。

（2）黒河道（くろこみち）ウォーク

帰宅日の 50 日目 5 月 22 日(火）快晴のもと、奥の院を基点に高野七口の一つ黒河道（くろこみち）（図－38）を橋本まで歩いた。前記図－37b 中央紫色トラックログのスタートからまもなく楊柳山（ようりゅうさん）1,008m まで 300m 近くの標高を一気に上げ（途中、道が無いことからルートファイティング)、そこから一気に 600m 下り、その後も急坂の二つの峠を越えて橋本に至るハードな山越えルートであったが、妙に充実感・達成感を覚えた。高野山麓の村々からお大師へお供物を運んだ「御番雑事（ごばんぞうじ）」が辿った道である。1594(文禄３）年高野山金剛峯寺において山内（さんない）禁令の能狂言を催した太閤秀吉は急な雷雨を大師の怒りと感じ、この道を馬で駆け下ったという逸話がある伝説の道でもある。殆ど歩かれないために道は倒木などでかなり荒れていた。

そして、橋本駅発 11 時の電車に乗り、新大阪→東京駅→山形駅と繋いで帰宅した。

図－38

23. 経過日数の数字遊び

（1）88 番大窪寺の結願日は、4̀3̀ 日目の 5 月 15 日(火̀)、4̀3̀ は「死（4＝し、3＝さん）散」、死んで散り散りになる意になる、せっかく結願なのに不吉な予感！　ところが、死が散り散りになって雲散霧消、すなわち生き返るに成る。また、４＋３＝７はラッキーセブン、「 5̇ 1̇ 5̇ 」の並びから、中央の“Ｎｏ１”を仲介とし、左端そして右端を見れば、５＋１＝６＝１＋５＝６と同じ数字（大きさ）となり（左右のバランス作用)、私の誕生月日に一致した。火曜日の“火“はまさに燃える、厄難を焼却する力を有する。

なお、4̀3̀ の数字並びは１番霊山寺の出発日 4̀ 月 3̀ 日の数字並びと一致したのだ。偶然の必然、必然の偶然としか言いようがない！　出発日⇒（時空ジャンプ）⇒結願日。

（2）１番霊山寺に戻った満願日は、4̀4̀ 日目の 5 月 16 日(水̀)、一般的には忌み嫌う“死の 4（し）”それが二つ続き最悪の縁起、一方、４は“四̀葉のクローバー“、４＋４＝８で末広がりの“八”となり、最悪・どん底の死は、真逆の幸福・無限性に繋がる。“相反一如“は中和作用・中庸化作用の意、真に縁起が良いではないか。水曜日の“水”もまた汚れ・穢れを流す浄化力を有する。

（3）高野山での大満願（成満）は、4̀9̀ 日目の 5 月 21 日(月)

皆が忌み嫌う最悪の「4（し）と 9（く）」の不吉組み合わせが表れた。

a．高野山奥の院（御廟）参拝のへんろ最終日の大満願日は49日目となった。仏教的な49日目の意味合いは、この日を境にこの世に残っていた故人の魂が、次の世に旅立つ日と云われている。

現実の私に嵌めれば、着用した「白い衣」には、「死への覚悟と再生への誓い―――擬死（ぎし）再生の儀礼」という意味合いを込めており、日常生活を離れ少しの心の洗浄を欲し、へんろの全てが修行であるとして立ち向かった覚悟・決意と、その結果としての完（貫）歩成就の姿をシンボライズドしたものである。

b．49は『四（よ(4)ん）輪（く=9）駆動』に重なり、親から貰った2足にダブルストックの2本を加え、まさに4本の駆動輪を全力で廻して歩いたへんろであった。

c．“49”の数字については、もう一つある。30日目の5月2日(水）に49番浄土寺を打った時、足豆の炎症で弱気が増して最落の心境の中、札番号『4 9（しく＝死苦）』の数字にひらめきがあった、“しく（4 9）しく（4 9）泣くんじゃね、く（9）るし（4）いが何とか打ち砕きたい、乗り越えたい”という強い意思（反発心）が湧き、その証（印）として白衣にここの御朱印を貰おうとなった。幸いにも白衣にただ一つ空きスペースがあったのだ。これが、後述の白衣にある御朱印である。

d．もう一つ

49＝7×7　⇒　ラッキーセブン（7）のダブル、または七福神のダブル　⇒　吉のいいことばかりじゃないか。

e．もう一つ

49＝7×7　⇒　私の数え歳70歳の7と北斗七星の7　⇒　いいことばかりじゃないか。

私の数え歳「生まれた年を一歳として、後の新年の度に一歳を加えて数える年齢」は、したがって、2018－1948(1949年・昭和24年生まれ）＝70歳

f．7に繋がる北斗七星は、「ナナツボシ」とか「ナナヨノホシ」、あるいは、桝（ます）の四星と柄（え）の三星から「四三（しそう）の星」とも謂われる。また、桝（ます）の四星を頭部の「魁（かい）」と、柄（え）の三星を尾部の「杓（しゃく）」とも呼ばれる。さらには、動く丸い車を持った交通機械と見做し「旋璣玉衡（せんきぎょくこう）」とも。また、全体的には「柄杓（ひしゃく）」の形や大匙（おおさじ）の形にも見える。私は星と言えば、北極星と北斗七星しか確たる見分けが付かない。

ここで表出した四（4）と三（3）についても、前記とおりの1番霊山寺出発日4月3日の数字並びと一致したのだ。

g．一方で、壇上伽藍に到達した前日の48日目と合わせ、“4　8　4　9”→　4は共通　→

“（4）　8　9　”→四苦八苦（4 9 8 9）（行ったり来たり、右往左往）”はへんろの全容。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

以上（1）・（2）・（3）三つの節目の時に出会った・表出した数字は偶然というより必然的に巡り合ったものと理解している。正・逆、反対性質のものが同時に表れたが、この同時内包には宇宙を支配する魔の手「陰陽相対（待）性原理」があり、これが私に及ぼして天地人合一を成してもの。

24. 白衣へのご朱印

今回も、着用したものとは別に、神仏混淆のオリジナル御朱印用白衣を作った。朱印の割り付け（位置）もスタート前から構想していたものである。ただし、上記のとおりの 49 番浄土寺（背面）についてはまったく現地着想（ヒラメキ）で予定外のもの。宿の部屋ではこの白衣をハンガーに掛けて、亡き家族に語り掛け対話した。

図－39a は前面、図－39b は背面（後）である。対応するように各朱印を活字化したものが図－40a、図－40b である。なお、一番下手なのは『大山祇神社』の筆字だが、神主が不在で奥様が書いたためである。みんなとても達筆、筆字を紙に書くよりも布に書くのは格段に難しいはず。

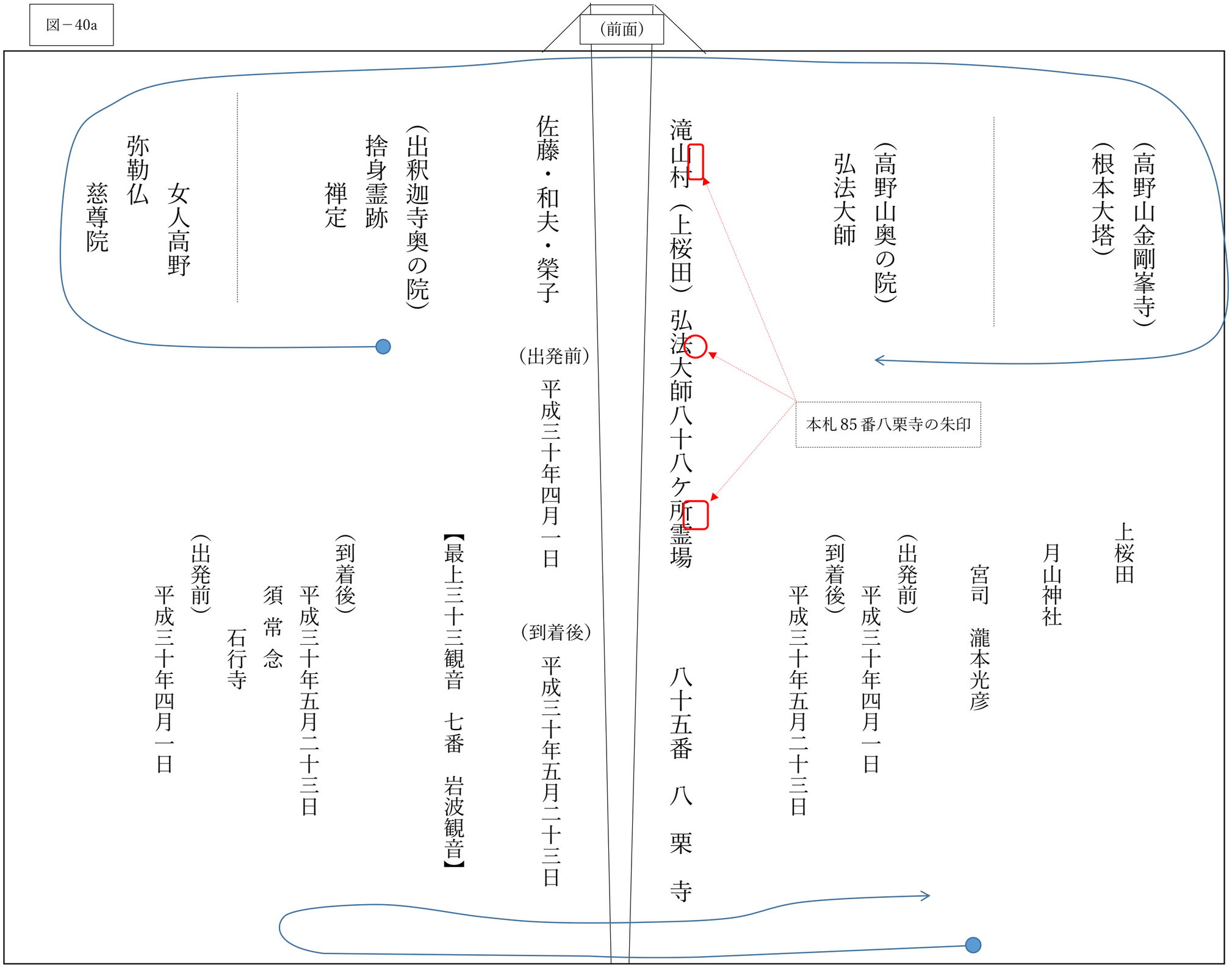
月山神社
宮司 瀧本光彦
佐藤和夫・栄子

図－39a

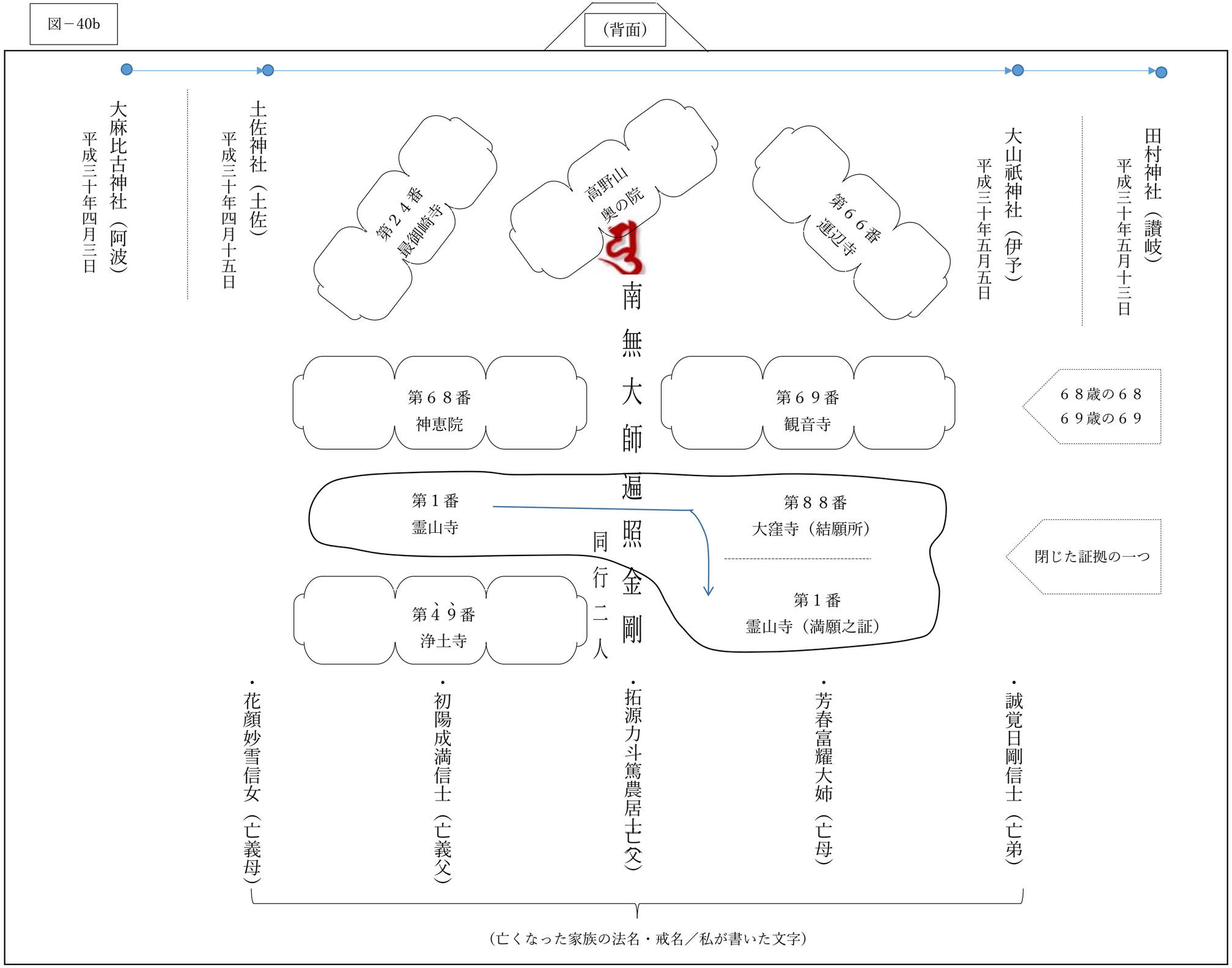
讃岐國一宮
田村神社
土佐神社
大麻比古神社
2018年
平成30年
順打ち
南無大師遍照金剛
同行二人

図－39b

図－40a


（前面）
（高野山金剛峯寺）
（根本大塔）
（高野山奥の院）
弘法大師
滝山村（上桜田）弘法大師八十八ケ所霊場
本札85番八栗寺の朱印
佐藤・和夫・榮子
（出発前）
平成三十年四月一日
（到着後）
平成三十年五月二十三日
（出釈迦寺奥の院）
捨身霊跡
禅定
女人高野
弥勒仏
慈尊院
上桜田
月山神社
宮司　瀧本光彦
（出発前）
平成三十年四月一日
（到着後）
平成三十年五月二十三日
八十五番　八　栗　寺
【最上三十三観音　七番　岩波観音】
（到着後）
平成三十年五月二十三日
須　常　念
石行寺
（出発前）
平成三十年四月一日

図－40b


（背面）
大麻比古神社（阿波）
平成三十年四月三日
土佐神社（土佐）
平成三十年四月十五日
第２４番
最御崎寺
高野山
奥の院
第６６番
蓮辺寺
大山祇神社（伊予）
平成三十年五月五日
田村神社（讃岐）
平成三十年五月十三日
南無大師遍照金剛
同行二人
第６８番
神恵院
第６９番
観音寺
６８歳の６８
６９歳の６９
第１番
霊山寺
第８８番
大窪寺（結願所）
第１番
霊山寺（満願之証）
閉じた証拠の一つ
第４９番
浄土寺
・花顔妙雪信女（亡義母）
・初陽成満信士（亡義父）
・拓源力斗篤農居士（亡父）
・芳春富耀大姉（亡母）
・誠覚日剛信士（亡弟）
（亡くなった家族の法名・戒名／私が書いた文字）

25. 創作詩と替え歌

今回の四国へんろの中で創作詩を載せた替え歌を６曲作ったが、その中の一つを記述します。

題目は『へんろは至高の自由世界』、原曲は松原健之（たけし）さん歌唱の「ふるさとの空遠く」（作詞は石原信一、作曲は弦哲也）です。楽譜は後記図－41のとおりです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

一、野山地の真竹の様（よう）は　雪降るままに押されゆく
　　花は花　無心にして　蝶々を受ける
　　歌（音）（うた）は波（なみ）！　色即是空（しきそくぜくう）　こだわらないで
　　(聞こえるが見えない)
　　生まれたあの時に還（かえ）るのさ
　　神々（かみがみ）の影尋（たず）ね　夢を貫く

二、河原地の柳の様（よう）は　風吹くままに流れゆく
　　蝶は蝶　無邪気にして　花々に降りる
　　波（なみ）は歌（音）（うた）！　空即是色（くうそくぜしき）　とらわれないで
　　(見えないが聞こえる)
　　生まれたあの処（とこ）に戻るのさ
　　仏（ほとけ）らの顔仰ぎ　望み叶える

三、「対等（たいとう）」に「無償」が溶ける四国へんろ路に
　　清らかな神・仏（ほとけ）の風が舞う
　　誰からも縛られぬ　独りの歩き旅

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

本詩には強い思い入れがあったことからその思いのほどを記述します。

四国に行くと、里山地域には繁茂したモウソウチクとマダケの竹林が眼に付きます。遍路道もそこを通過することが非常に多いのです。その風景から吾が地元の小さな竹林の竹が雪に押されてしなる状況が、連想して、強風にたなびく柳が浮かんで来たのがきっかけでした。加えて、へんろでは毎日唱える般若心経の「色即是空・空即是色」とデビッド・ボーム（米国の理論物理学者）の「ホログラフィー宇宙モデル」の明在系（自我⇒色；見える・聞こえる実像）と暗在系（真我⇒空；見えない・聞こえない虚像）のことが気になっていたことがごちゃ混ぜにして創作したものです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

《　一、野山地の真竹の様(よう)は　雪降るままに押されゆく　花は花　無心にして蝶々を受ける
歌(うた)（音）は波(なみ)！　色即是空(しきそくぜくう)　こだわらないで　生まれたあの時に還(かえ)るのさ
(聞こえるが見えない)
神々(かみがみ)の影尋(たず)ね　夢を貫く　》

☞　真竹は、着雪しても簡単には折れなく、抵抗することなく重力に押されるままにしなる。花は、自らは好き嫌いを表さず、近寄る蝶々の選別に任せ、来たものは拒まず皆受け止める。自然は周囲の環境とそのままに同調し、自然は置かれた環境をありのままに受け入れるではないか。みな！「俺がオレが」、と抵抗・執着しないではないか。

☞　人の歌声の表側には聞こえる声（実像）があるのだ、しかし、聞こえる声だけが歌の全ての実態では無い、主(しゅ)の声（発信音）は見えない波に変身し空間（空気）を伝わり来て、耳の鼓膜を振動させ聞こえる―――受信音となるのだ。色すなわち聞こえる声（実像・実体）は、見えない波すなわち空（虚像・虚無）と渾然一体なのだ　～　色即是空（色は即ち是れ空なる）／色不異空。

そう、一方だけに、一つのものだけに、一面だけに、今だけに拘っては真実が見えないのだ、真実を見るためにはこだわり（先入観・既成概念・固定観念）を捨てなければならぬ、そう、生まれた時は何の知識・知恵も無い虚無・無空の世界にいたのだ、大自然の法則・大宇宙の真理や神仏の心と同化していたのだ、そんな生まれた時のまっさらな状態に還る気持ちを持ちたいものだ。

☞　そんなことを気付かせてくれる、そんな力を与えてくれるステージは、神々と大香(わたくし)のもう一人の私（真我）との対話が出来る舞台が用意されたからなのだ、そこが四国へんろ！　そんな思いで『心(しん)・言(げん)・行(こう)』―――心（認識や精神）・言（言葉や言語、文字）・行（行動や習慣）」を震わせば、夢を貫く（持ち続ける、叶える）ことが出来るのだ。

《　二、河原地の柳の様(よう)は　風吹くままに流れゆく　蝶は蝶　無邪気にして花々に降りる
波(なみ)は歌(うた)（音）！　空即是色(くうそくぜしき)　とらわれないで　生まれたあの処(とこ)に戻るのさ
(見えないが聞こえる)
仏(ほとけ)らの顔仰ぎ　望み叶える　》

☞　柳も、強風を受けても簡単には折れなく、抵抗することなく風圧に押されるままにしなる。蝶は、自らは好き嫌いを叫ばず、ただ目前の花の美しさに惹き付けられて降り立ち蜜を御馳走になる。自然は周囲の環境とそのままに同調し、自然は置かれた環境をありのままに受け入れるではないか。みな！「俺がオレが」、と抵抗・執着しないではないか。

☞　人の歌声の裏側には見えない波（虚像）があるのだ、しかし、見えないが波だけが歌の全ての実態では無い、耳の鼓膜が振動したのは、空間（空気）を伝わって来た見えない波に変身した主(しゅ)の声（音）があるからだ。空（無）すなわち見えない波（虚像・虚無）は、聴こえる声

（音）すなわち色（実像・実体）と混然一体なのだ　～　空即是色（空は即ち是れ色なる）／空不異色。

そう、一方だけに、一つのものだけに、一面だけに、今だけに拘っては真実が見えないのだ、真実を見るためにはとらわれ（先入観・既成概念・固定観念）を捨てなければならぬ、そう、生まれた時は何の知識・知恵も無い虚無・無空の世界にいたのだ、大自然の法則・大宇宙の真理や神仏の心と同化していたのだ、そんな生まれた時のまっさらな状態に戻る気持ちを持ちたいものだ。

☞　そんなことを気付かせてくれる、そんな力を与えてくれるステージは、諸仏と大香のもう一人の私（真我）との対話が出来る舞台が用意されたからなのだ、そこが四国へんろ！　そんな思いで『心・言・行』を震わせば、希望を叶えることが出来る（実現する）のだ。

《　三、「対等」に「無償」が溶ける四国へんろ路に
清らかな神・仏の風が舞う
誰からも縛られぬ　独りの歩き旅》

☞　拘るな・捉われるな　と訓えてくれる四国へんろは、ユニーク・個性豊かな様々な人々との出会いを引き寄せてくれ、そこは、対等互敬（恵）に真の「無償の愛と無償の奉仕」が溶け合い滔々と流れる大潮流の中で泳ぐ気分を貰う舞台、一期一会の花が咲き誇る絢爛豪華な舞台、その中央には、煌々と光放つ真善美の絶対軸（天御柱）が凛と立っている舞台、小賢しい人間の力では如何ともし難い至高の訓えが垂れる舞台なのだ。

私の言う対等互敬（恵）とは、次のとおり。

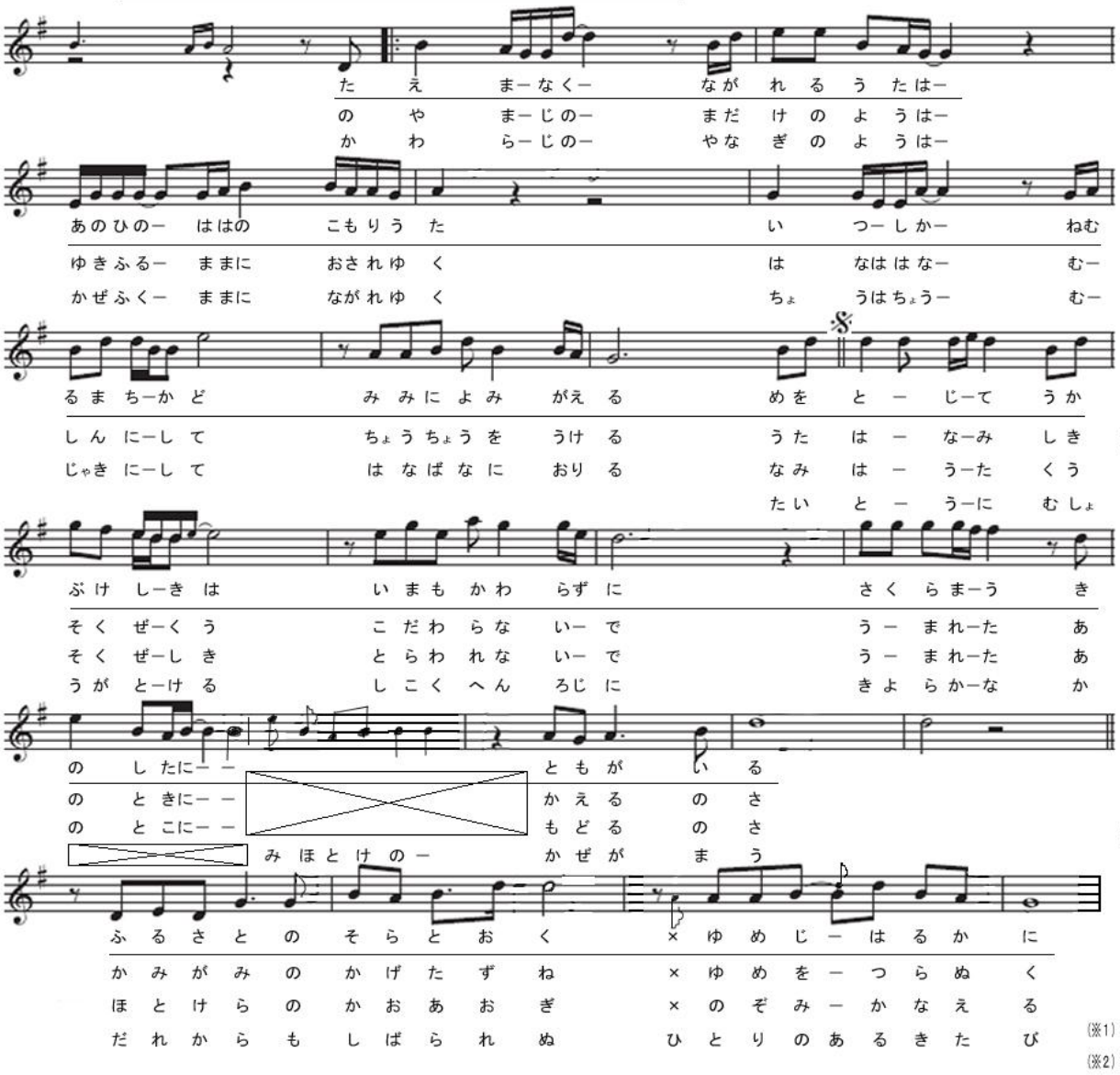
❑1 文字のとおり、お互いの人間性（社会的な権利義務）は対等・互角であり、お互いのそのままの有り様を尊重・尊敬することをいう。

❑2 お互いが攻守（責・受）の肝を教え学び合う人生指導員足るをそれぞれが自覚している関係性をいう。

☞　まさに神様・仏様の神威仏光の爽やかな風が吹き渡る舞台なのだ、まさしくそこが四国へんろなのだ。

☞　駆け引きや探り合いの無い世界、見せ掛けの善意を押し売りするような偽善が微塵も無い世界！　そんな中で誰からも干渉を受けずに、自身の心だけで決められる独り（一人・ひとり）の歩き旅の醍醐味を満喫出来る（出来た）のだ、人生に勝ち負けはない、憎悪を以って勝ち負けの勝負に挑んでも決着が着こうはずはない、他人・他者とは係り合いなくどれだけ自由に生きているかが問題だ。こんな最高の自由世界をくれた四国へんろよ！　ありがとう！

(5]於3回目四国へんろ)へんろは至高の自由世界　　(原曲「ふるさとの空高く」の替え歌)




一、野山地の真竹の様は　雪降るままに押されゆく

花は花　無心にして　蝶々を受ける

歌（音）は波！　色即是空　こだわらないで
(聞こえるが見えない)

生まれたあの時に還るのさ

神々の影尋ね　夢を貫く

二、河原地の柳の様は　風吹くままに流れゆく

蝶は蝶　無邪気にして　花々に降りる

波は歌（音）！　空即是色　とらわれないで
(見えないが聞こえる)

生まれたあの処に戻るのさ

仏らの顔仰ぎ　望み叶える

三、「対等」に「無償」が溶ける四国へんろ路に

清らかな神・仏の風が舞う

誰からも縛られぬ　独りの歩き旅

(※1) 玉緒譜直下の歌詞は、原曲「ふるさとの空遠く」(歌唱：松原健之/作詞：石原真一/作曲：弦哲也)の1番目の歌詞

(※2) 替え歌の詩は大沼薫作　2018(H30)年6月6日（水）

図－41

26. あらためて振り返って

過去２回のへんろでは余り体験しなかった特記すべきものを記述します。

（１）あらためて一期一会の醍醐味を味わいました。出会った人達と過去にはなかったほど踏み込んで対話・懇談出来ました。とても清涼感がありました。前出魚里さんと宝門さんの二人（図－42）ともう一人の前出斎藤さん、３人と携帯電話番号を交換したが、これまでの計３回の四国へんろの中でこれは初めてであります

図－42

それぞれが培って来た、磨いて来た魂というものを感じ、三人につたない短歌を届けたいと思います。（大迷惑かな？）

・Ｕさんへ

静けさに直感冴える俯瞰の眼（め）

御足（みあし）は竹似（に）ぞ余裕綽々

・Ｈさんへ

その馬力どこから来るのかお見通し

孫八家族の笑顔が泉

・Ｓさんへ

初めてのへんろの旅に暗視の眼（まなこ）

独（ひと）り人力（じんりき）溢れるパワー

一期一会の醍醐味とは「後々まで尾を引き摺るような物事の貸し借りはしない・無い。物事一回限りの完結編、腐れ縁・しがらみになろうはずが無い。」これです。日常生活の人間の付き合いにおいても出来るだけ、「日々、一期一会、日々完結編」を意識しています。

（２）宿の何人かの女将さんが話していたが、「遍路に身分・社会的地位は関係ない。」あらためて新鮮な感じがしました。色々な人（お遍路さん）の中には、その身分・社会的地位を匂わし振り回すのもいた、遍路のべき論を展開し独善的に理屈を言い回すのもいた、私に向かい語って来るが、私には何の役にも立たない、「自慢か・・・馬耳東風・・・」。『考える・思う』のは個人の自由、しかし、他人に向かって、私に向かってべき論を語るなかれ、と言いたい。とある二人の人に「遍路にべき論（そうするべき、こうあるべき）」という言い回しはいらない。」とさりげなく言い放ってやりました。私が思うに、組織統制の網がかかった会議・打ち合わせで無い限り、出会った場や遍路空間は究極の『極自由』の世界です。個人の自由意思に基づく発言を最大限尊重するのが私の基本的生き方です。したがって、似非学者風が強いるような、囲い込むような雰囲気は排除にかかります。交流した多くの皆様から「溢れる無償の愛（愛を心のお接待と置き換えてもいい）」を沢山頂戴しました。心よりうれしく思っています。

（３）日常生活とは違う様々な出来事に遭遇し、歩き道の選択肢も複数あるが、全て瞬時の自己判断、その結末の全ては自己責任であることを強く自覚します。様々な人との交流を通して、

❒[1] 本物の絆とは、群(ムレ)る事・徒党を組むことではないということも学びます。孤独・孤立を恐れ、それは恥ずかしいことと謂われるが、孤独・孤立・個立は心の自主独立・自尊独立の、心の自由の隠語なのであります。

❒[2] いくら頑張ったからと言っても、自分は立派だと思っても、俺が俺がと威張っても、所詮は、一人の価値観なんて極限られた自分だけの世界、自分の経験した世界でしかなのです、限られた一面の見方でしかないのです。例えば思想信条の区分一つとっても、少なく見積っても７７億人分とおりの切り口があります。一人が７７億人分を消化出来ないのです。

❒[3] 東日本大震災以後「自助・共助・公助」が叫ばれているが、自助とはまさに自己責任、自主独立・自尊独立のことです、まずは、この認識無くして、自身の思想信条を他人に託す、生き方を他人にすがるなどということはその時点で自己放棄です。こうなると、自助発展系の共助・公助を叫ぶ、社会のセーフティーネットを論ずる資格はありません。

私と他人、その間に駆け引きや貸借の生じない人間関係の理想像を体験出来ます、へんろは素晴らしい時空の理想郷です。そんなことを気付かせてくれます。

（４）帰宅して妻から問われた“　へんろで何をお願いして来たの？　何を得たの？　”

❒[1] 私の即答は「特別のお願いは何もして来ないよ、ただ、御経を挙げて“　歩かせて貰ってありがとう　”と心の中で呟(つぶや)いて来ただけ。特別の何かを得た・備わったということは何もないよ。」これ以上でも以下でもない。つまり、今の私は出発時と何も日常と変わらない、と。

同じような質問を他の人から多々聞かれます。40 日間～50 日間も自宅を離れて非日常的なことをやって来る訳だから、他人から見ればそれだけの時間と費用を掛けたのだから、具体的な見返り・ご利益の有無とその多寡(たか)に関心を持つのは、人間の性(さが)としての心底にある覗き見主義・興味本位からすれ当然であろうと思います。

❒[2] もう一つよく聞かれるのが“　へんろに行く目的は何ですか？　”

私にはへんろに出かける確たる目的はありません、へんろで実利的な何かを獲得する意図はありません。“ただ四国の霊場巡りを歩きたい！”だけです。神社・寺院に向かい佇(たたず)み拝礼する時、個人的・利己的な健康長寿を、あるいは、金が貯まるように等、明確に対象・目標を定めて、心に何かを強く意識して祈る・縋(すが)るということはありません。ただ“拝む”だけです。そして“諸々のご加護に感謝申(もわお)す”と囁(ささや)く・呟(つぶや)く程度です。寺社境内は元より、現地の人々・遍路人(びと)との一期一会の出会い、景色・風景、全ての雰囲気が感動的なので、そこに浸りたいとの期待感はあります。今回はどんなハプニングに遭遇するのかなあなどと少しの不安も過(よぎ)ります。目的が無いのに行きたくなる、これは「お四国病」と謂われています。

一端、１番霊山寺に入りスタートに立つと、日常を離れて異国に来た感じになり、冒険心が掻き立てられ、何か新しい発見があるのではないかとワクワク感・期待感が疼(うず)くのです。私自身の心模様の変化が不思議です。そうなる原因の回答はありません。

# 【　補　完　資　料　】

本文を補完する関係・参考の資料として以下を添付します。

＜　別記（補完）　－　1　＞　「我拝師山『捨身ヶ嶽禅定』参拝」について
＜　別記（補完）　－　2　＞　『　六芒星　』について
＜　別記（補完）　－　3　＞　『　一の宮　』　について
＜　別記（補完）　－　4　＞　『　国分寺　』　について
＜　別記（補完）　－　5　＞　『　高野山　壇上伽藍　』　について
＜　別記（補完）　－　6　＞　『　４県の県庁と城（城跡）　』　について
＜　別記（補完）　－　7　＞　『　野の花々　』　について

＜　別記（補完）　－　1　＞　「我拝師山『捨身ヶ嶽禅定』参拝」について

図Ｈ－1のとおりの７３番札所「出釈迦寺」より約 2km 弱南方にあるお大師さま修行の場所、我拝師山「捨身ヶ嶽禅定」（同寺奥の院）を往復して来ました。お大師様修行地の地と云われることから、過去の２回のへんろ時も狙っていたが適っていませんでした、この度は敢えて時間を取り、現地でたまたま一緒になった魚里さん（本文記載）と行って来ました。

標高 481m で格別危険な所はなかったが、行場の手前 100m ほどはごつごつした岩場に丈夫な鎖が設置されて急峻な場所でした。

図Ｈ－2　→　図Ｈ－3　→　図Ｈ－4　→　図Ｈ－5のとおりの足取り順で、行場を通り越して山頂に着きました。

図Ｈ－１

図Ｈ－２；左は尾根筋に着いた所、右はその先の捨身ヶ嶽行場への通路

図Ｈ－３；行場へのゴツゴツした岩場

図Ｈ－４；絶壁の上に立つ行場、弘法大師捨身尊像

図Ｈ－５；左は我拝師山頂直下、右は山頂

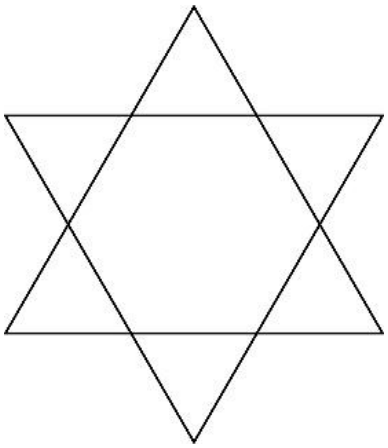
## ＜　別記（補完）　－　２　＞　『　六芒星　』について

本文７頁「２．遊び心（１）」の中で取り上げた『６』に纏わり、発展的に六芒星のあれこれです。

『６』の数字の持つパワーについて、６の約数は１と２と３であるが、全部加えると１＋２＋３＝６に戻り、この約数を全部かけると１×２×３＝６となりこれもまた戻る。

さて、六芒星（ヘキサグラム）は星型多角形の一種で、六本の線分が交差する図形（図Ｈ－６）である、六角形の各辺を延長することで出来る。また、二つの正三角形を逆に重ねた図形でもある。

三角形の三であるが、「天地人」三才の三、男（父）と女（母）の交配交合により子供（子）ができて親子関係の基本セットを生（な）すことの三でもある。

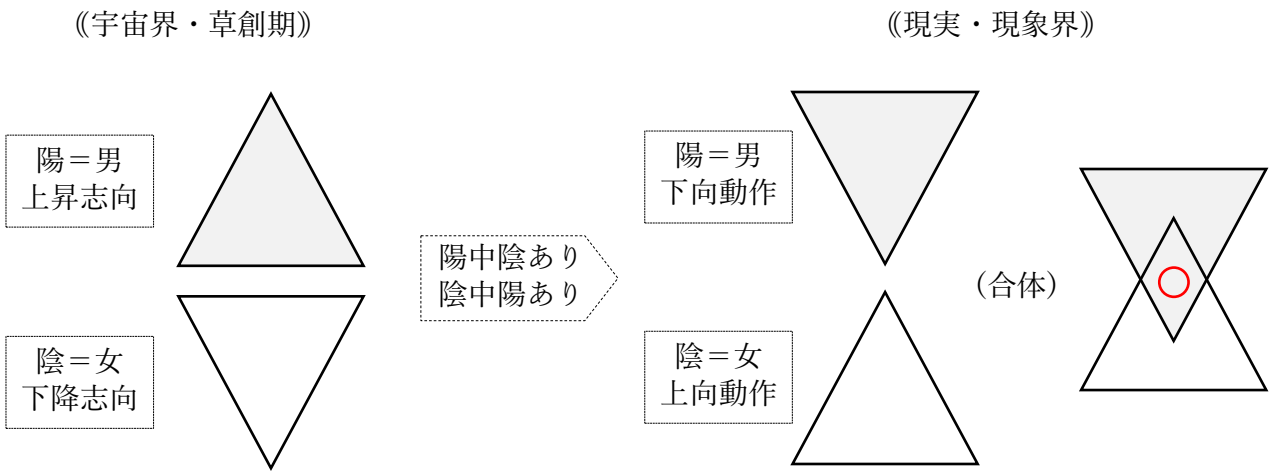


図Ｈ－６

図Ｈ－７のとおり、「陰陽相対（そうたい＝あいたい）（待）性原理」の視点で捉えてみます。宇宙草創期の原初は、上向きの正三角形△は男性性（能動的原理）を表し、下向きの正三角形▽は女性性（受動的原理）を表わす。能動的原理と受動的原理は、陽と陰、光と影、天と地、プラスとマイナス、創造と破壊、善と悪、火と水などのように、相対する・相反するエネルギーの象徴。「相反」の関係は、他方で（逆に）互いを必要とし合い、補い合い、ついては表裏一体を成す。相対的エネルギーの調和、融合という深い意味がある。同原理の永遠の「陽中陰あり、陰中陽あり」のうごめきは、この現実・現象界においては、陰陽が入れ替わることになる。正常と異常が交替し、異常が正常になる。

自然界には六角形の構造を持つものが多く存在し、我が国では古来、長寿の亀の甲羅模様は六角形だから目出度い、純白の雪の結晶（形）は六角形だから美しさの象徴、力学的に丈夫な形を持つミツバチの巣は六角形だから安定性の象徴として、珍重されて来た。

六芒星とくれば、五芒星についても語りたくなるが、ここでは割愛し記述しないこととする。




図Ｈ－７

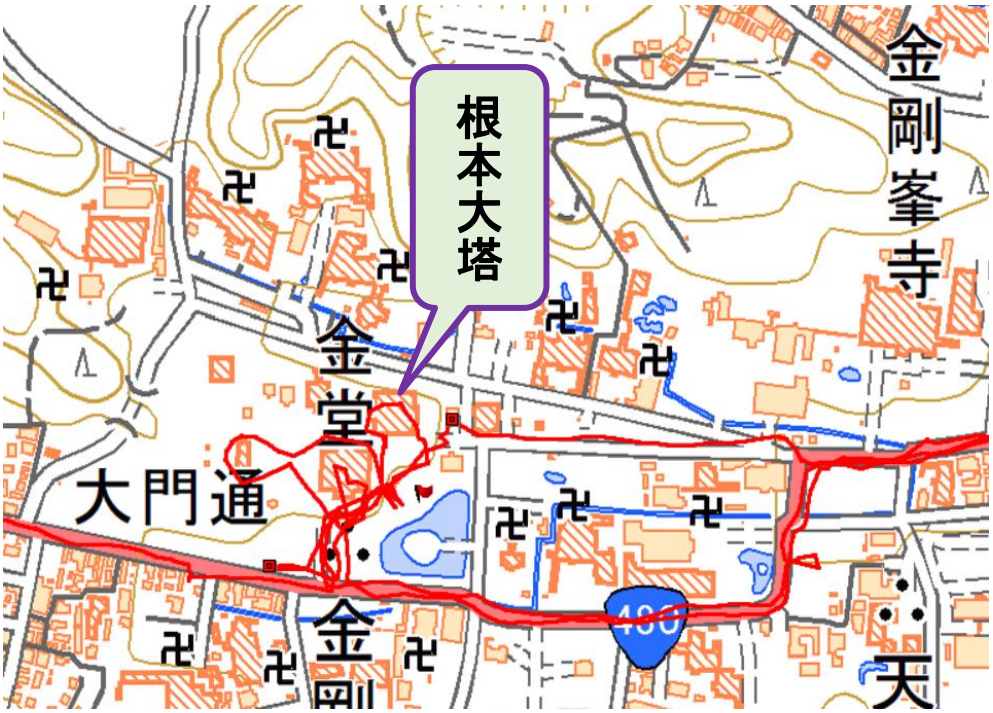
## ＜　別記（補完）　－　３　＞　『　一の宮（いちのみや）　と　国分寺　』　について

日本は、奈良時代から江戸期までは律令制（今にいう法治制度）に基づいた 68（基本 66＋島２）か国を設定し、その中で、四国において今に残る一の宮と国分寺は図(表)H－8 のとおりで、参拝を果たした。

| 図(表)H－8 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 場所 | 阿波の国（徳島県） | 土佐の国（高知県） | 伊予の国（愛媛県） | 讃岐の国（香川県） |
| | 以下は一の宮 | | | |
| 社　名 | 大麻比古神社 | 土佐神社 | 大山祇神社 | 田村神社 |
| 参拝日 | 4 月 3 日(火) | 4 月 15 日(日) | 5 月 5 日(土) | 5 月 13 日(日) |
| | | | | |
| | 以下は国分寺 | | | |
| 参拝日 | 4 月 6 日(金) | 4 月 15 日(日) | 5 月 6 日(日) | 5 月 12 日(土) |
| 寺　名 | １５番<br>薬王山金色院<br>國分寺 | ２９番<br>摩尼山宝蔵院<br>国分寺 | ５９番<br>金光山最勝院<br>国分寺 | ８０番<br>白牛山千手院<br>国分寺 |
| 本　尊 | 薬師如来 | 千手観世音菩薩 | 薬師瑠璃光如来 | 十一面千手観世音菩薩 |
| 開　基 | 行基菩薩 | 同左 | 同左 | 同左 |
| 宗　派 | 曹洞宗 | 真言宗智山派 | 真言律宗 | 真言宗御室派 |

## ＜　別記（補完）　－　4　＞　『　高野山　壇上伽藍　』　について

「壇上伽藍」（図Ｈ－9）の地は、「奥の院」と共に、高野山の二大聖地の一つである。真言宗仏教の中枢部・核心部である。




図Ｈ－9

⊙「金堂（こんどう）」（ご本尊は薬師如来）～図Ｈ－10

高野山の開創時から存在すると云われる、高野山内で最古の歴史を持つ建造物、今の物は 1934 年（昭和 9 年）に再建され鉄筋コンクリート造りになった。薬師如来像は秘仏となっており、御開帳の時以外見ることは不可。脇侍（わきじ）から挟まれた中央の厨子（ずし）に収められ安置されている。

図Ｈ－10

⊙「根本大塔（だいとう）」（ご本尊は胎蔵界大日如来）～図Ｈ－11

金堂が造営されてから後の 816 年から 894 年の間に建立されたと云われ、現在見ることの出来る根本大塔は 1937 年（昭和 12 年）に再建され、創建当初のような木造ではなく鉄筋コンクリート造りになった。

図Ｈ－11

説明の一部および本図の写真は金剛峯寺のホームページ等から借用した。

＜　別記（補完）－５　＞　『　４県の県庁と城（城跡）　』　について

特別な立ち寄り個所として決めていた８個所の写真を掲載する。

図Ｈ－12

＜　別記（補完）－６　＞　『　野の花々　』について

へんろの道すがら、気になった可憐な自然界の野花（中には西洋系のものもあるかも）。庭とか明らかに手入れしていると思われるものは除いている。花の名前を覚えると楽しみは倍加すると思うが、分るのは数種類のみ。このような野花を立ち止まって眺めていると、可愛さにとても癒される。

図Ｈ－13

多数の写真を撮影したが、本書を仕上げた直後にハードディク交換時の操作ミスにより全部消失してしまいました、これが残念です。

（end）

## 【 お わ り に 】

１．あれやこれや

毎日がただ札所（お参りする 88 か寺）を目指して歩き・歩け・歩くだけです。眼前の景色は山・川・谷・海と刻々と変わります、天候も気温も波を打つように変わります。お空の雲一つとっても形を変え、流れを変え刻々と変化します。身体は汗が噴き出て、快活感もあればだるさ・微熱も出る時もあり変化します。足豆の炎症は歩き始めの数分間を我慢すれば炎症部が麻痺し痛みが消えます、が、信号待ちなどで足を緩めると痛みが復活し激痛が走ります。

頭の中は出会った人のこと、このへんろの先々の予定のこと、来年以降に行って見たいと思う所の夢や希望、余命の過ごし方や命の閉じ方、国家の政治経済のこと、吾が地元の人間関係・コミュニティのこと、家族のことやら種々諸々の雑念や妄念・妄想が浮かんでは消え、消えては浮かびます。理路整然と整理整頓したり、決断したりする暇も無く、また、決断する気も無く時が流れて行きます。そして無心な時も流れます。無心な時も流れると言ったが、黙っているとそれらは記憶の引き出しには入らず飛散・霧消して行くのを自覚出来るのです。頭に浮かんで来る千変万化のものごとが、消長の波で揉まれ後々まで記憶に残りません。そこで記録を残すための要点をその都度にＩＣレコーダー（ボイスメモ機）に吹き込んでいます。

それらの全部をへんろの情景と言うならば、私がそれらの情景と一体となる、溶けるのでは無く、言い直すとそれらの情景と混ざるという感覚になります。

あるいは、大自然と『真我』―――自我（エゴ）とは正反対・対極にある心のこと、『真・善・美』を基軸とする「アイデンティティ（identity）＝大沼香としての主体性を確立した人間」を育む力との(※)「同期混合」という感覚になります。

純粋な科学的・物理的な事象のことでは無く、定性的な状況・状態のイメージを言いますが。

（※）同期混合と同調融合は違います、すなわち、同期は同調と違います。同調は何か対象・相手に合わせること（溶けて行く状況、どちらかが消滅する）の意、同期は個別の存在を保ちながら時と場を共有状態になること。

混合は融合と違います。融合はこちらが対象・相手に溶けること、よって、こちらが無くなる意、混合は粒粒（つぶつぶ）状の物が混ざり合わさる様相、こちらの存在が毅然（きぜん）と明示されていること。

『同期混合』とは同じような意の文字を連結・鎖交したもの、大自然と私は遠視眼的には一つになった状態―――ズームアウト（離れて観る）では溶け合っているが、近視眼的には分離した状態―――ズームイン（近付き観る）では別物の存在になっていることを言う。

この意を発展系で人間関係へ当て嵌めて言うならば、『対等互敬（恵）』の時空です。

このように敢えて、遊び心の後付けで言葉・文字に表したが、現場投入の身は、確たる目的は無く、「お四国病」の病に侵された身の上、茫然として、ただ歩いているだけです。

ところで、強い意識がある訳では無いが、四国へんろに無性に行きたくたる間接的な理由、背景事情があります。それは会社現役生活時代に沁み込んだ習慣ですが、何かに付けて“エビデンス（証拠、根拠、証言、痕跡）は？”と問われる企業土壌（社風）がありました。様々な意見・主張、発言、提案の場面において、「口先だけ」は通らなかったのです。文書を以って客観的・第三者的な論

拠を求められたのです。それは広く一般的に称される三現主義―――社内統一用語としては使わなかったが、問題解決する時の一つの姿勢として、「現場」に出向いて「現物」に直接触れ、「現実」を捉えることを重視する意―――の考え方に通じるものがあります。問題や課題解決の要諦は『現場』にある、机上でいくら議論にしても解決には至らない、そんなのは空理空論で時間を浪費しているに過ぎません。

そういうことから私流には「徹底した現場取材主義」が自然に身に付いたのです。

そのような習慣が性格になったが故に、書物の上のみで文字・活字を振りまして得意がり、人からの聞きかじりを我が物とすり替える盗人(ぬすっと)性、いくら高尚な言葉を並べても口先だけの弁舌家は信用しません、社交辞令で応対するものの内心は馬耳東風で飛ばしています。

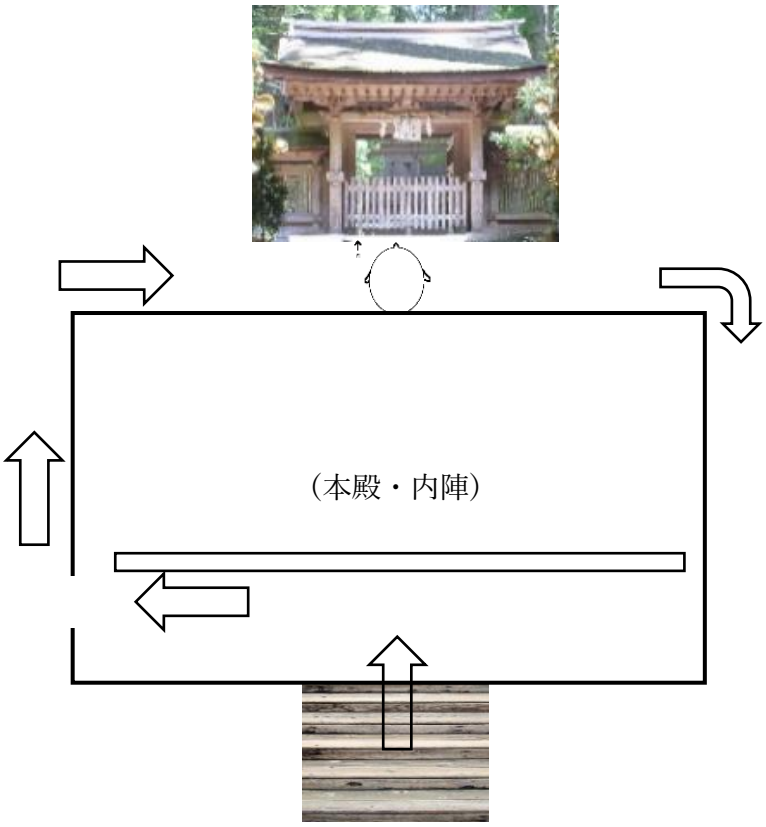
若い頃から日常生活の中で本（書籍）を読むことが習慣になっていましたが、加えて、還暦の頃から歴史に関心が高まりました。そうすると「現場取材主義」が躍動的になって、関連図書に記載されている場所や場面について、現場・現地に足を運んで事実・現実を確かめたいと思う性癖が行動を駆り立てるのです。それらの実践が、「歴史街道スルーハイク遊学紀行」―――2010（平成 22）年・満 61 歳から 2014（平成 26）年・満 65 歳までの 5 年間に 7,000km を歩行一人旅―――であったのです、四国へんろはその延長線上にあります。

## ２．無性の涙

高野山御大師様御廟の前で無性に涙が出てしばらく止まりませんでした。格別の理由はありませんでした。涙もろくなった感じ、歳のせいだと思う。私はこれを「幼児返り」と自称し、「けっつ(おしり)に青みが再生しつつある」と思っています。40 番観自在寺の納経所の方と対話したおり、「けっつに青みが再生した」と言ったら「本当かよ？」と真面目に言われました。

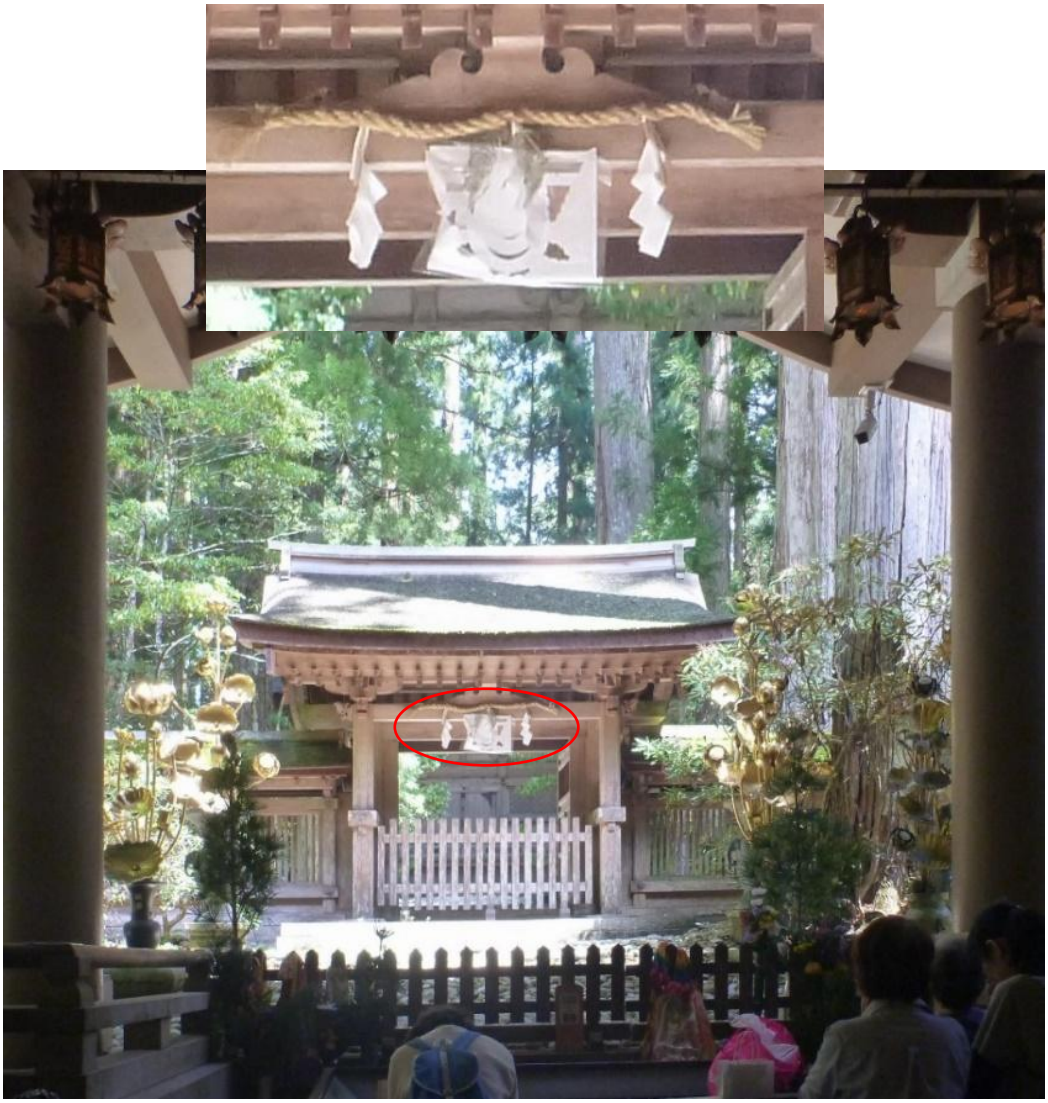
図－43 は御廟本殿（内陣）の見取り図、次頁図－44 は裏手に回って御廟正門の状況、いずれも本来は撮影禁止でありますが（ごめんなさい！）。

何と、御廟正門（図－44）頭部に紙垂を挟んだ注連縄と切り絵「宝来」を取り付けて結界しています。ここは真言宗の総本山の核心部であるが、仏の象徴では無く、神の象徴を以て至高の敬意を払っているのです。一般の寺院が最高秘密の秘仏を神の象徴の注連縄で結界する、仏を護る・守るということは出来るものでしょうか。このような包容力があるからこそ宗派を超えて・宗派を問わず、主義主張の如何に係らず多くの参拝者が集まるのです。




図－43

なお、「宝来」の切り絵は、元は御大師様が注連縄の代わりに考案したものとのことです。また、注連縄は言うまでもなく神道における神祭具で、神聖な区域とその外とを区分するための標（しめ）をいいます。



図－44

あこがれの四国へんろに入ってから今回が３回目でした。「　順打ち（１回目）－逆打ち（２回目）－順打ち（今回３回目）　」と希望どおりに完遂出来ました。いずれの時も全てを終えても格別の天を突くような高揚感はなかったが、素直に「無事、歩き通させて貰った、色んな人に支えられてここまで来た、感謝・感謝、ありがとう・ありがとう」と思うだけで、涙が止まりませんでした。とりわけ今回は御廟本殿前で感激の涙に任せて大泣きました。今回のこれまでの正味 49 日間、そして過去の２回のへんろが次から次へと浮かんで来ました。

今回の３回目を以て四国へんろの区切りとしたく思っています。

（完）

2018（平成 30）年 12 月 31 日（月）

山形県山形市上桜田
080-3338-3738
dreamyok@hotmail.co.jp